

輝く里吉田夢プラン

平成28(2016)年3月

吉 田 自 治 区

(吉田地区地域計画策定委員会)

目 次

序章	計画策定にあたって	1
1章	地区の概要	2
1	位置・面積	2
2	人口・世帯数	3
3	土地利用, 道路・交通	5
4	主要公共公益施設等	5
2章	地区の活性化計画づくりのためのアンケート調査結果の概要	7
1	16歳以上の住民	7
2	地区出身者	21
3章	地区の魅力・資源と問題点・課題	28
1	地区の魅力・資源	28
2	地区の問題点・課題	30
4章	地区の活性化計画	31
1	地区の将来像	31
2	地区づくりの基本方針	33
3	地区づくりの基本計画	34
4	計画の推進体制	45
資料	計画策定の取り組み	47

序章 計画策定にあたって

1 計画策定の目的

吉田地区には、宇根山、宇根山天文台、宇根山家族旅行村、久井の岩海、吉田大池、野間川ダム（マロン湖）など豊富な観光交流資源があるほか、冬ホテルイルミネーションイベントを開催しており、久井地域の中で来訪客が多い地区になっています。しかしながら、若年層を中心に人口が流出するなど、高齢化・少子化が進行し、地区活動の担い手が不足してきているとともに活力が失われてきています。

こうした状況を打開するには、自分たちの地区のことは自分たち自らで考え、一人ひとりがそれぞれの立場で協力して地区の活性化に取り組むことが一段と重要になっています。

このため、吉田自治区では、三原市中山間地域活性化事業を活用し、誰もが誇りをもち、自慢できる地区づくりを目指して「輝く里吉田夢プラン」の策定に取り組みました。

2 計画の役割

「輝く里吉田夢プラン」は、吉田自治区が中心になって取り組むことを総合的に示したもので、住民、関係団体などで地区づくりの方向性を共有するとともに、共通の指針とするものです。

また、計画内容を広く発信して、吉田地区出身者、都市住民など、多様な方の幅広い応援を働きかけるために活用します。

3 計画策定への取り組み

吉田自治区では、各種団体の代表者などとともに「吉田地区地域計画策定委員会」を設置し、「輝く里吉田夢プラン」の策定に取り組みました。

また、計画策定にあたっては、住民の皆さんの幅広い意見を聞くために、地区住民（16歳以上）及び地区出身者へのアンケート調査の実施、地区住民全員を対象とした地区活性化意見交換会（ワークショップ）を行いました。

4 計画の期間

計画の期間は、平成28(2016)～32(2020)年度までの5年間とします。

1章 地区の概要

1 位置・面積

本地区は、三原市久井地域の北東部に位置し、面積は約6.6km²です。

地区中心部（吉田コミュニティホーム）から主要な場所まで車を利用した場合の所要時間は、久井支所まで約10分、三原市中心部まで約30分、山陽自動車道三原久井インターチェンジまで約15分です。

図1 吉田地区の位置



2 人口・世帯数

(1) 人口の動向

本地区の総人口を住民基本台帳で見ると、平成27(2015)年で215人になっており、過去5年間で20人減少しています。

年齢3区分別人口をみると、平成27(2015)年で0～14歳20人、15～64歳96人、65歳以上99人になっており、65歳以上の割合は46%になっています。

年齢別にみると、過去5年間で0～14歳は横ばい、65歳以上は増加していますが、15～64歳が大幅に減少しています。

平成27(2015)年の男女別5歳階級別人口をみると、55歳未満の各年齢層において10人未満となっています。

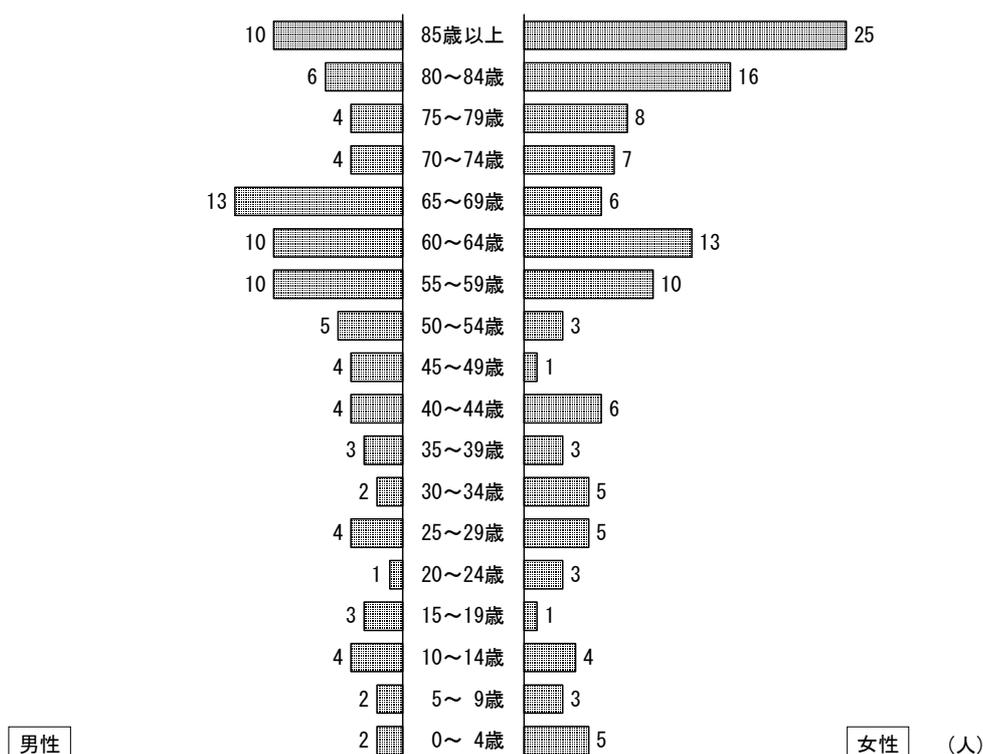
表1 人口の推移

(単位：人，%)

区 分		実 数			増減率	
		H17 (2005)年	H22 (2010)年	H27 (2015)年	H22(2010)／ H17(2005)	H27(2015)／ H22(2010)
実数	0～14歳	22	20	20	△ 9.1	0.0
	15～64歳	132	123	96	△ 6.8	△ 22.0
	65歳以上	104	92	99	△ 11.5	7.6
	合 計	258	235	215	△ 8.9	△ 8.5
割合	0～14歳	8.5	8.5	9.3	-	-
	15～64歳	51.2	52.3	44.7	-	-
	65歳以上	40.3	39.1	46.0	-	-

注：人口は、各年9月末現在。

図2 男女別5歳階級別人口（平成27(2015)年）



(2) 世帯数の動向

本地区の総世帯数を住民基本台帳でみると、平成27(2015)年で87世帯になっており、過去5年間で横ばいになっています。

1世帯当たり世帯人員は平成27(2015)年で2.5人になっており、過去5年間で0.2人減少しています。

表2 世帯数等の推移

区 分	実 数			増減率(%)	
	H17 (2005)年	H22 (2010)年	H27 (2015)年	H22(2010)／ H17(2005)	H27(2015)／ H22(2010)
世帯数(世帯)	85	87	87	2.4	0.0
世帯人員(人)	3.0	2.7	2.5	△ 10.0	△ 7.4

(3) 人口の将来見通し

人口の将来見通しを平成22(2010)年と平成27(2015)年の住民基本台帳人口をもとに推計すると、平成32(2020)年、平成37(2025)年ともに200人になり、10年間で約20人の減少が見込まれます。

年齢別に平成27(2015)年と平成37(2025)年の人口を比較すると、0～14歳は横ばい、15～64歳は減少、65歳以上は増加するものと見込まれます。

また、高齢化率は、平成32(2020)年55%、平成37(2025)年60%と大幅に増加するものと見込まれます。

注：人口の将来見通しは、平成22(2010)年から平成27(2015)年の男女別5歳階級別の人口の推移率を求め、その推移率が将来も継続するものとして推計しました。(例：平成22(2010)年の女性の0～4歳人口5人→平成27(2015)年の女性の5～9歳人口4人の場合は、推移率が0.800になります。)

図3 年齢区分別人口推計

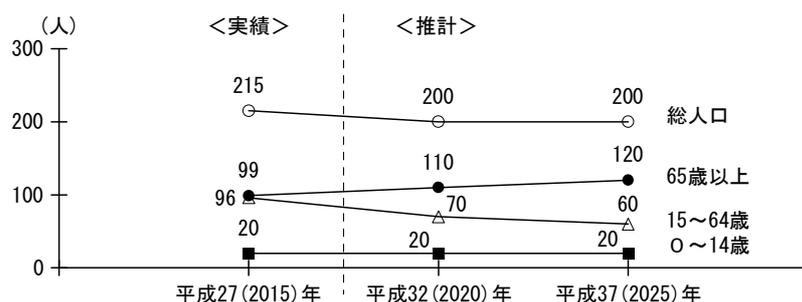
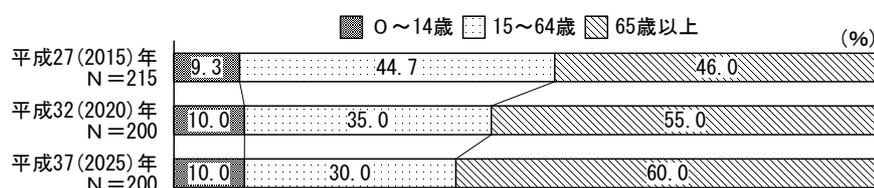


図4 年齢区分別人口割合



3 土地利用，道路・交通

本地区は，吉田コミュニティホーム，行広集会所周辺に農地・集落が分布しており，その周辺を山林が囲んでいます。北部には標高699mの宇根山があり，眺望が良好です。河川は，東部を野間川，西部を吉田川が南北に流れています。

道路網は，(一)御調久井線が地区中央を東西に走り，江木地区や(主)三原東城線と連絡するとともに地区の骨格道路になっています。

また，地区南部を(一)吉田丸門田線が走るとともに，宇根山一帯や久井の岩海を連絡する市道が走り，観光交流資源の周遊ルートになっています。

地区の公共交通としては，吉田地区と久井支所周辺及び江木地区中心部を連絡する久井ふれあいバスが週2日運行しています。

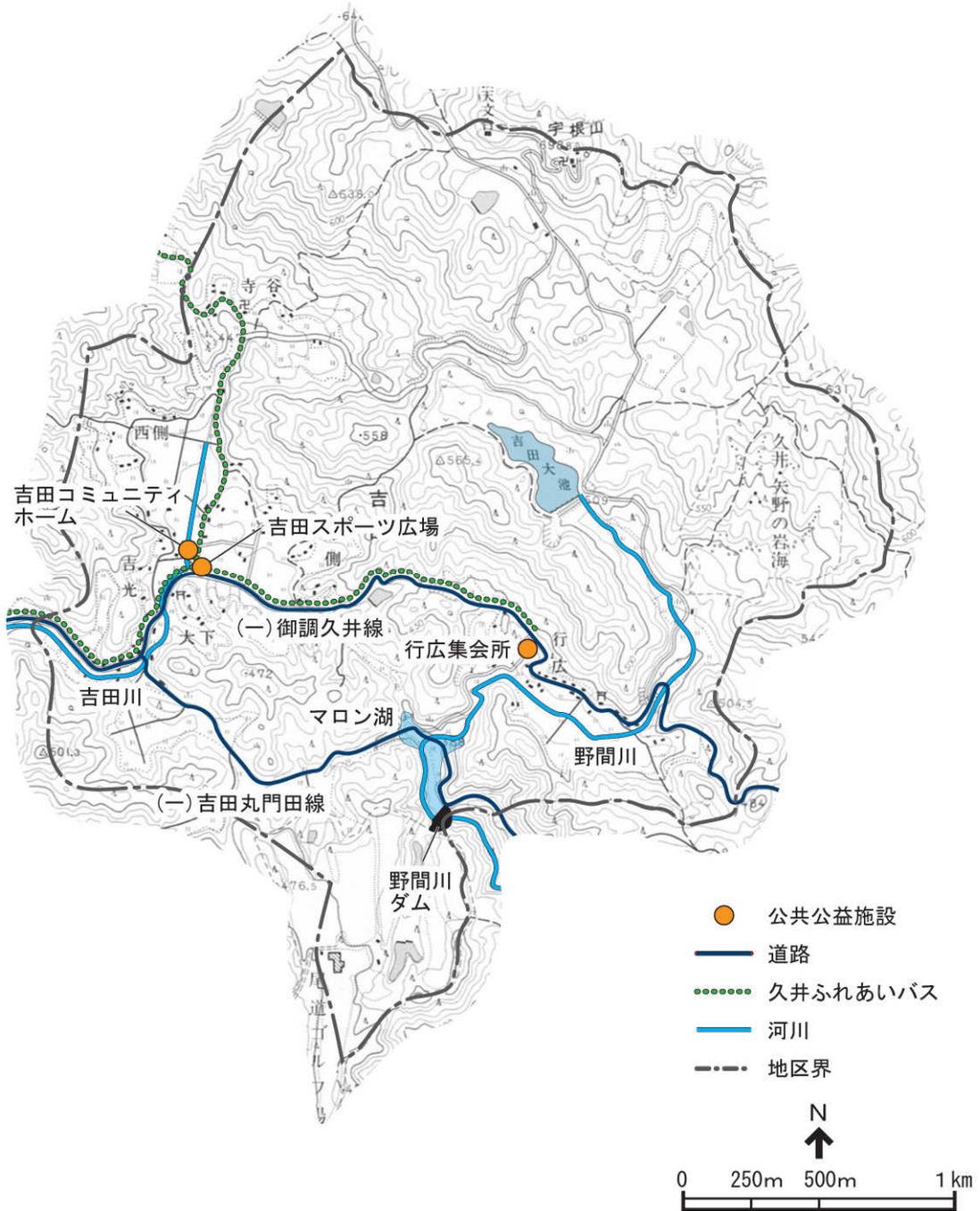
4 主要公共公益施設等

本地区には，集会施設として地区西部に吉田コミュニティホーム，地区東部に行広集会所があります。また，スポーツ施設として吉田スポーツ広場が吉田コミュニティホームに隣接してあります。この広場には幼児遊園があり，地区内外の子育て世代に利用されています。

表3 吉田地区の公共公益施設

区 分	名 称
集会施設	吉田コミュニティホーム 行広集会所
スポーツ施設	吉田スポーツ広場

図5 吉田地区の公共公益施設等



2章 地区の活性化計画づくりのためのアンケート調査結果の概要

本調査は、地区住民（16歳以上）及び地区出身者（盆の帰省者）の意見を把握し、「輝く里吉田夢プラン」の策定に反映するために行ったもので、調査票の回収件数は地区住民（16歳以上）の方160件、地区出身者の方41件でした。

1 16歳以上の住民

(1) 回答者自身について

回答者の性別は、「男性」44.4%、「女性」51.9%で女性の割合がやや高くなっています。

年齢は、「75～84歳」が19.4%で最も割合が高く、次いで「65～74歳」17.5%、「50歳代」16.9%、「60～64歳」及び「85歳以上」12.5%、「40歳代」8.1%、「30歳代」5.6%、「20歳代」5.0%、「16～19歳」1.3%の順になっており、65歳以上が約5割を占めています。

家族構成は、「三世代・四世代」が23.1%で最も割合が高く、次いで「夫婦二人暮らし（二人とも又はどちらかが65歳以上）」及び「二世代（親と同居）」21.3%、「二世代（子どもと同居）」15.6%、「一人暮らし（65歳以上）」8.8%、「夫婦二人暮らし（夫婦ともに65歳未満）」4.4%、「一人暮らし（65歳未満）」0.6%の順になっており、「一人暮らし（65歳以上）」と「夫婦二人暮らし（二人とも又はどちらかが65歳以上）」を合わせた割合が約3割を占めています。

図6 性別

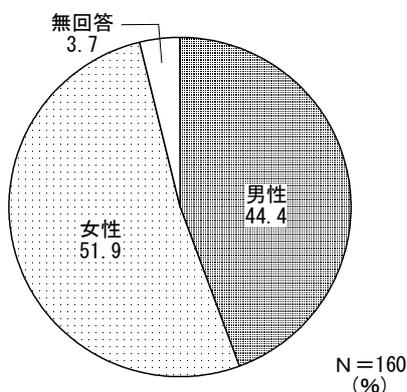


図7 年齢

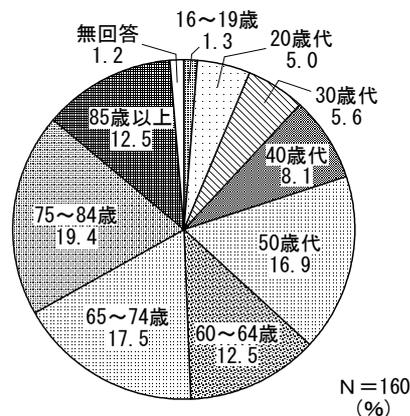
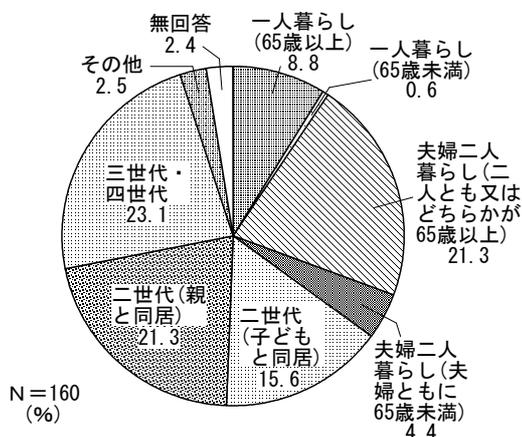


図8 家族構成



(2) 行事・活動への参加状況と満足度

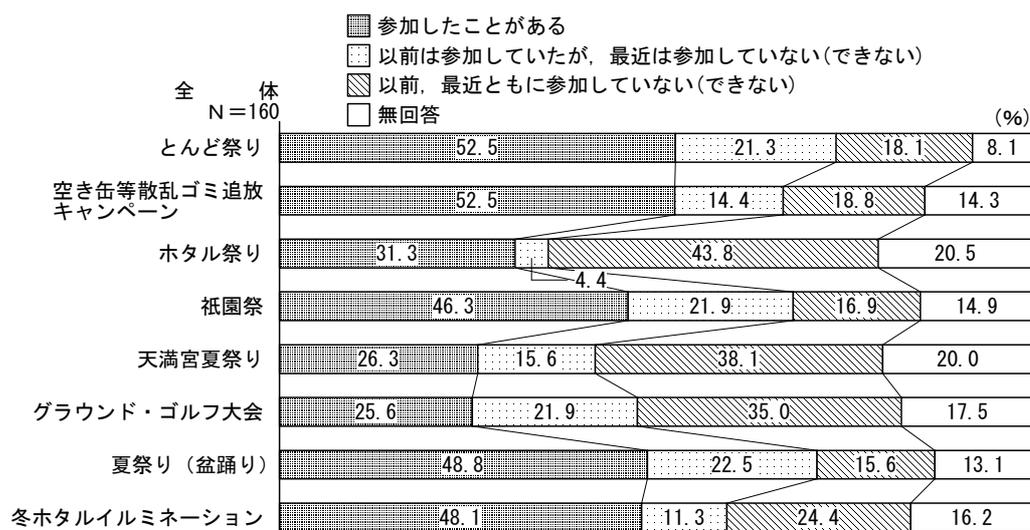
ア 行事・活動への参加状況

行事・活動へ「参加したことがある」と答えた人をみると、「とんど祭り」及び「空き缶等散乱ゴミ追放キャンペーン」が52.5%で最も割合が高く、次いで「夏祭り（盆踊り）」48.8%、「冬ホテルイルミネーション」48.1%、「祇園祭」46.3%の順で、これら5行事が50%前後になっています。その他では、「ホテル祭り」31.3%、「天満宮夏祭り」26.3%、「グラウンド・ゴルフ大会」25.6%の順です。

また、「以前は参加していたが、最近では参加していない（できない）」と答えた人をみると、「夏祭り（盆踊り）」22.5%、「祇園祭」及び「グラウンド・ゴルフ大会」21.9%、「とんど祭り」21.3%で、これら4行事の割合がやや高くなっています。

さらに、「以前、最近ともに参加していない（できない）」と答えた人をみると、「ホテル祭り」が43.8%で割合が高くなっているほか「天満宮夏祭り」及び「グラウンド・ゴルフ大会」も30%台になっています。

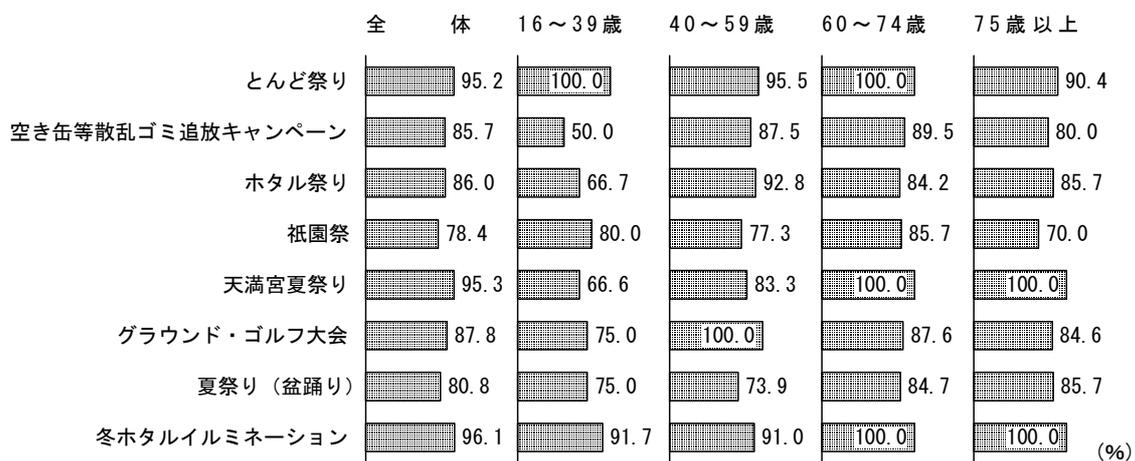
図9 参加状況



イ 行事・活動に参加した人の満足度

行事や活動へ参加している人の満足度（「良い」と「やや良い」を合わせた割合）をみると、90%台3項目、80%台4項目、70%台1項目で、全ての項目で満足度が高くなっています。

図10 満足度

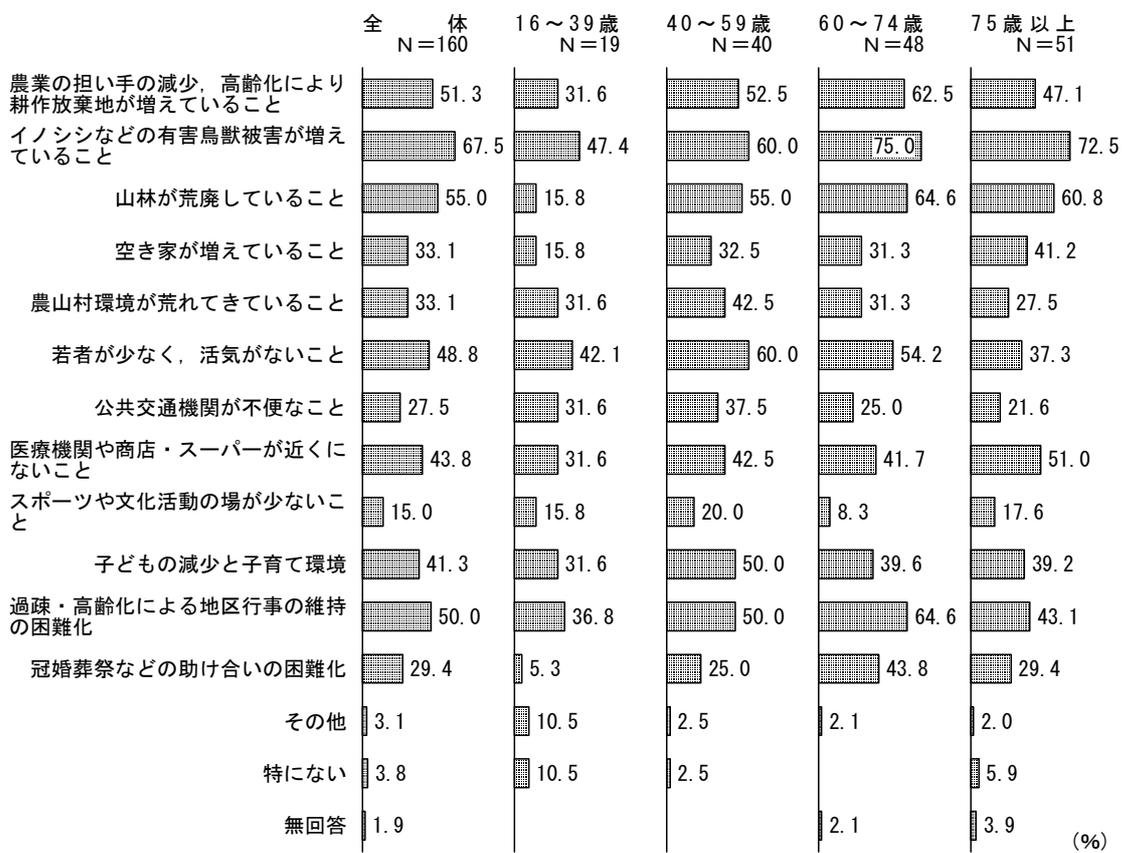


(3) 地区の現状や将来のことでの不安や今後の居住意向

ア 地区の現状や将来のことでの不安に思っていること

地区の現状や将来のことでの不安に思っていることは、「イノシシなどの有害鳥獣被害が増えていること」が67.5%で最も割合が高く、次いで「山林が荒廃していること」55.0%、「農業の担い手の減少、高齢化により耕作放棄地が増えていること」51.3%、「過疎・高齢化による地区行事の維持の困難化」50.0%、「若者が少なく、活気がないこと」48.8%の順で、これら項目が上位5位を占めています。その他では、「医療機関や商店・スーパーが近くにないこと」43.8%、「子どもの減少と子育て環境」41.3%などの順です。

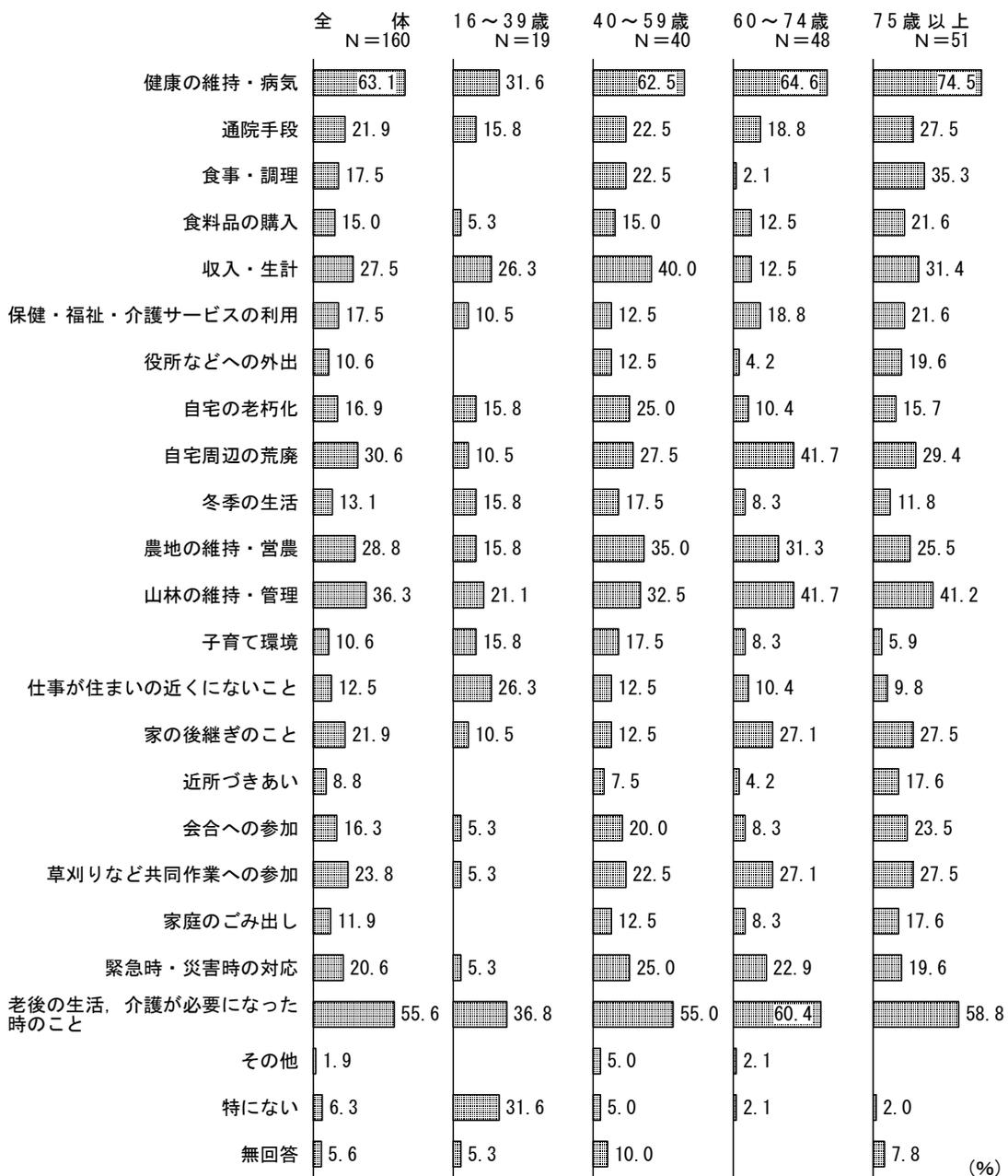
図11 地区の現状や将来のことでの不安に思っていること（複数回答：いくつでも）



イ 個人や家族のことで不安に思っていること

個人や家族のことで不安に思っていることは、「健康の維持・病気」が63.1%で最も割合が高く、次いで「老後の生活、介護が必要になった時のこと」55.6%、「山林の維持・管理」36.3%、「自宅周辺の荒廃」30.6%「農地の維持・営農」28.8%の順で、これら項目が上位5位を占めています。その他では、「収入・生計」27.5%、「草刈りなど共同作業への参加」23.8%、「通院手段」及び「家の後継ぎのこと」21.9%、「緊急時・災害時の対応」20.6%などの順です。

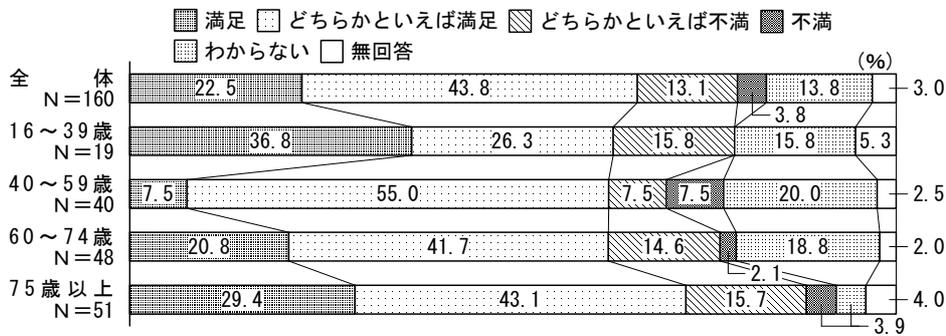
図12 個人や家族のことで不安に思っていること（複数回答：いくつでも）



ウ 地区の住みやすさの評価

地区の住みやすさについては、「満足」22.5%、「どちらかといえば満足」43.8%で、これらを合わせた住みやすさに満足している人の割合は66.3%と約2/3を占めています。

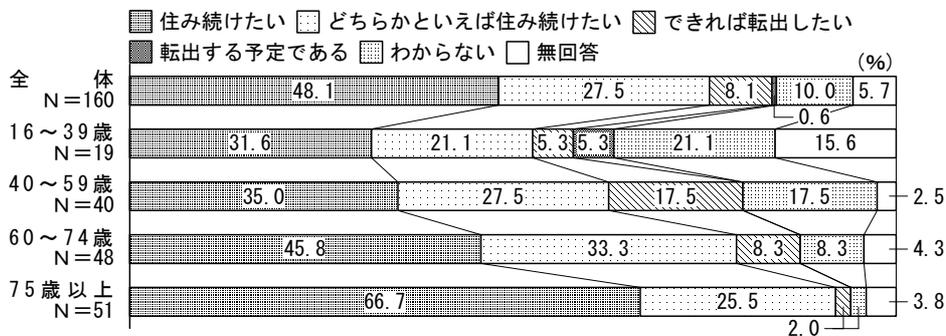
図13 地区の住みやすさの評価



エ 地区への今後の居留意向

地区への今後の居留意向は、「住み続けたい」48.1%、「どちらかといえば住み続けたい」27.5%で、これらを合わせた地区へ住み続ける意向の人は3/4以上です。

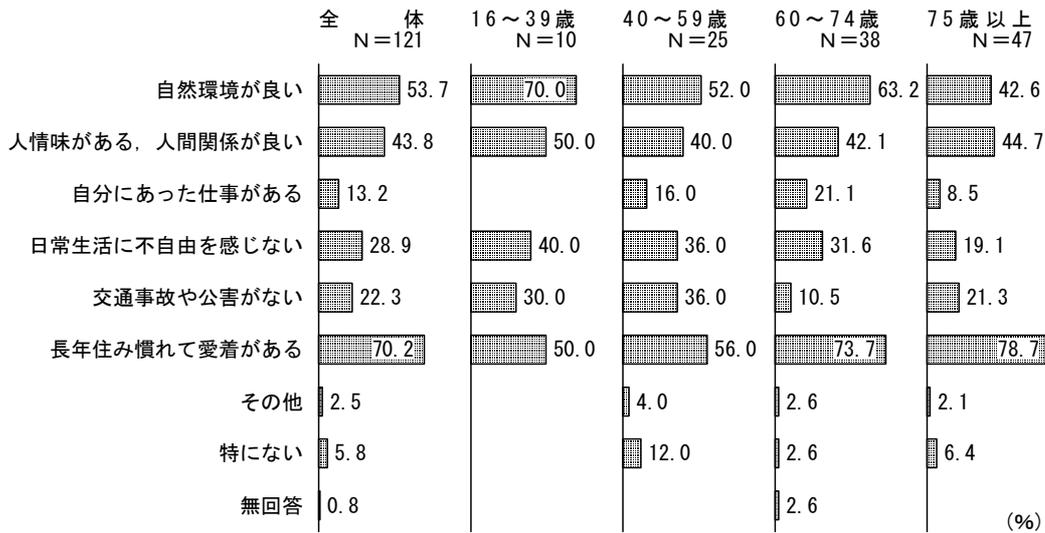
図14 地区への今後の居留意向



オ 地区に住み続けたいと思う理由

地区に住み続ける意向のある人の住み続けたいと思う理由は、「長年住み慣れて愛着がある」が70.2%で最も割合が高く、次いで「自然環境が良い」53.7%、「人情味がある，人間関係が良い」43.8%の順で，これら3項目を挙げた人の割合が高くなっています。その他では、「日常生活に不自由を感じない」28.9%、「交通事故や公害がない」22.3%などの順です。

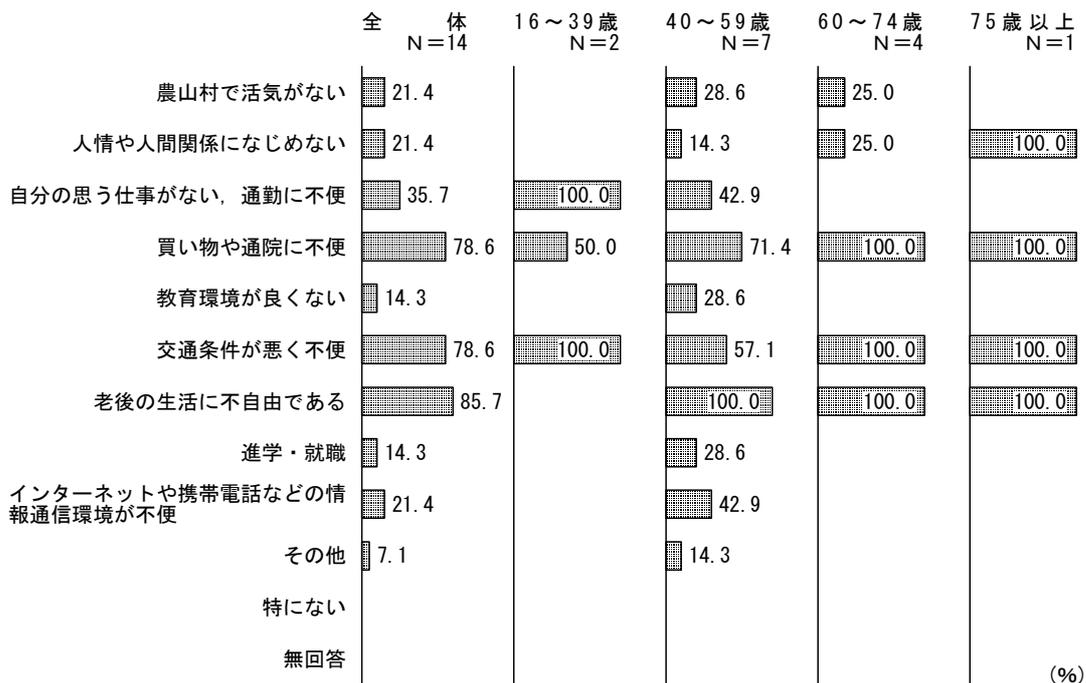
図15 地区に住み続けたいと思う理由（複数回答：いくつでも）



カ 地区を転出したいと思う理由

地区を転出する意向のある人の地区を転出したいと思う理由は、「老後の生活に不自由である」，「買い物や通院に不便」及び「交通条件が悪く不便」の3項目が80%前後と割合が高くなっています。

図16 地区を転出したいと思う理由（複数回答：いくつでも）

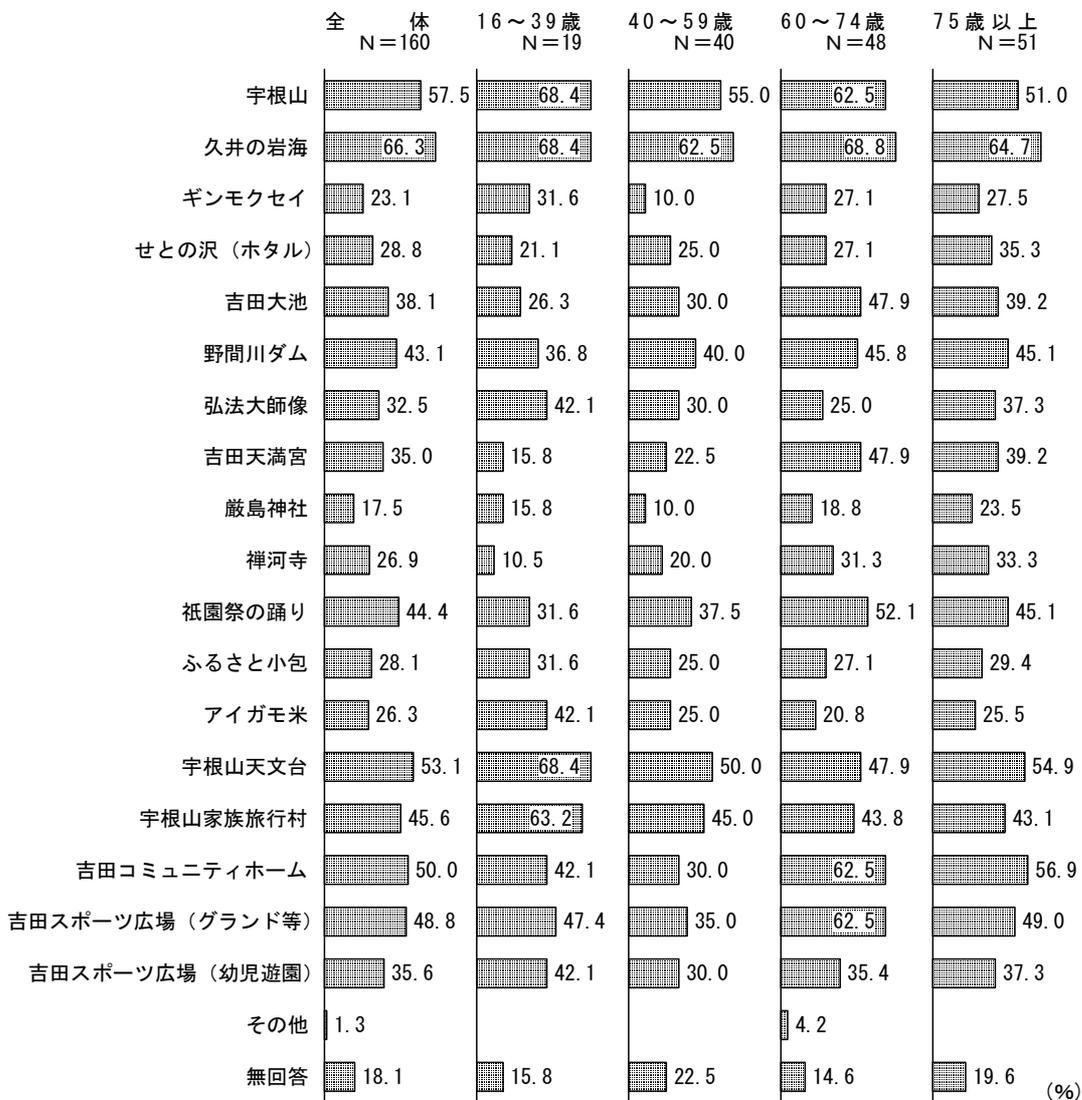


(4) 今後の地区づくりについて

ア 地区で大事にしたい、活用したい資源

地区で大事にしたい、活用したい資源は、「久井の岩海」が66.3%で最も割合が高く、次いで「宇根山」57.5%、「宇根山天文台」53.1%、「吉田コミュニティホーム」50.0%、「吉田スポーツ広場（グラウンド等）」48.8%の順で、観光交流資源の多い宇根山一帯，地区のコミュニティ拠点である吉田コミュニティホーム一帯が上位に挙げられています。その他では、「宇根山家族旅行村」，「祇園祭の踊り」及び「野間川ダム」の3項目が40%台になっています。

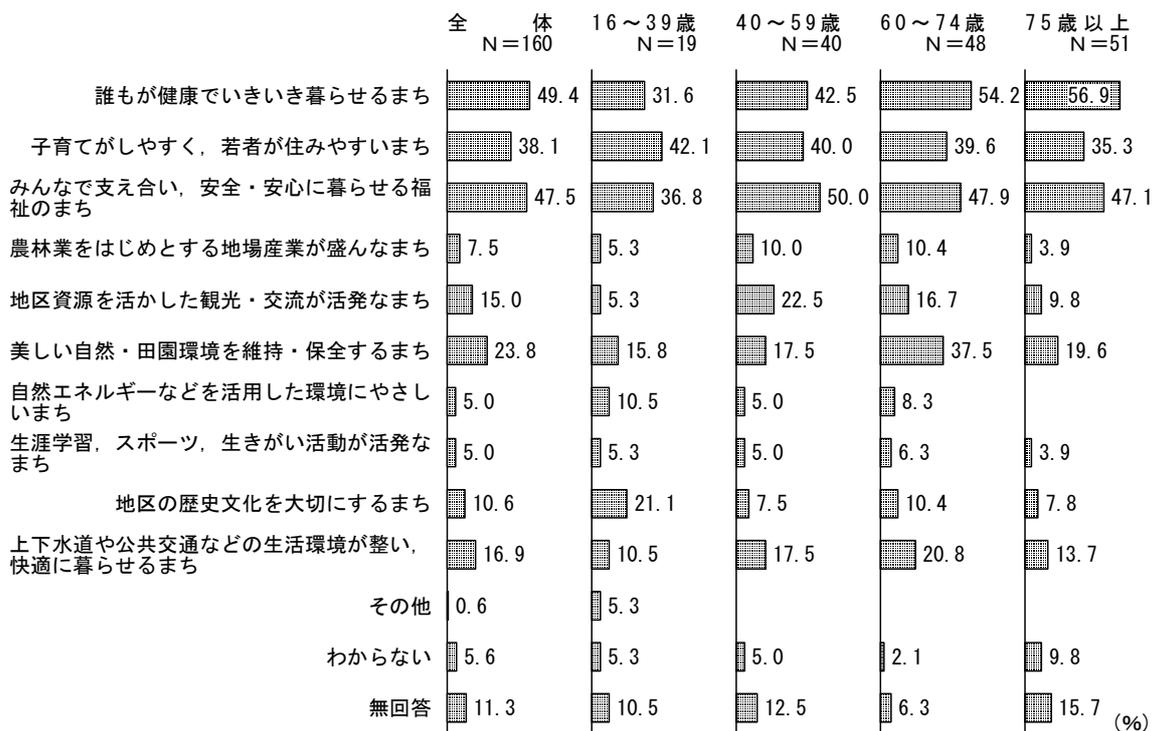
図17 地区で大事にしたい、活用したい資源（複数回答：いくつでも）



イ 地区の将来像

地区の将来像は、「誰もが健康でいきいき暮らせるまち」が49.4%で最も割合が高く、次いで「みんなで支え合い、安全・安心に暮らせる福祉のまち」47.5%、「子育てがしやすく、若者が住みやすいまち」38.1%の順で、これら項目が上位3位を占めています。その他では「美しい自然・田園環境を維持・保全するまち」23.8%、「上下水道や公共交通などの生活環境が整い、快適に暮らせるまち」16.9%、「地区資源を活かした観光・交流が活発なまち」15.0%などの順です。

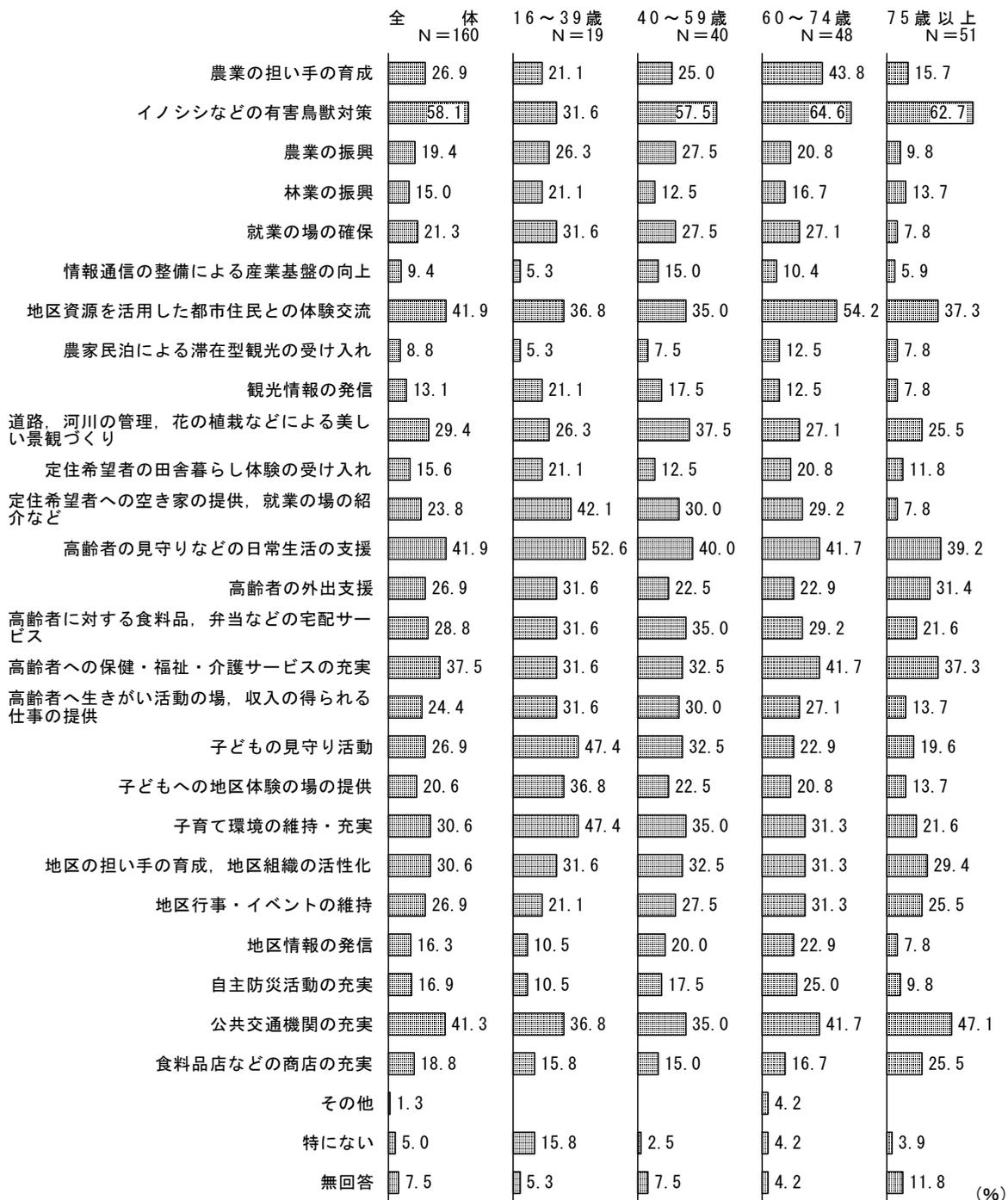
図18 地区の将来像（複数回答：3つ以内）



ウ 地区で今後取り組みたいこと、取り組んで欲しいこと

地区で今後取り組みたいこと、取り組んで欲しいことは、「イノシシなどの有害鳥獣対策」が58.1%で最も割合が高く、次いで「地区資源を活用した都市住民との体験交流」及び「高齢者の見守りなどの日常生活の支援」41.9%、「公共交通機関の充実」41.3%、「高齢者への保健・福祉・介護サービスの充実」37.5%の順で、これら項目が上位5位を占めています。その他では、「子育て環境の維持・充実」及び「地区の担い手の育成、地区組織の活性化」30.6%、「道路、河川の管理、花の植栽などによる美しい景観づくり」29.4%、「高齢者に対する食料品、弁当などの宅配サービス」28.8%、「農業の担い手の育成」、「高齢者の外出支援」、「子どもの見守り活動」及び「地区行事・イベントの維持」26.9%などの順です。

図19 地区で今後取り組みたいこと、取り組んで欲しいこと（複数回答：いくつでも）

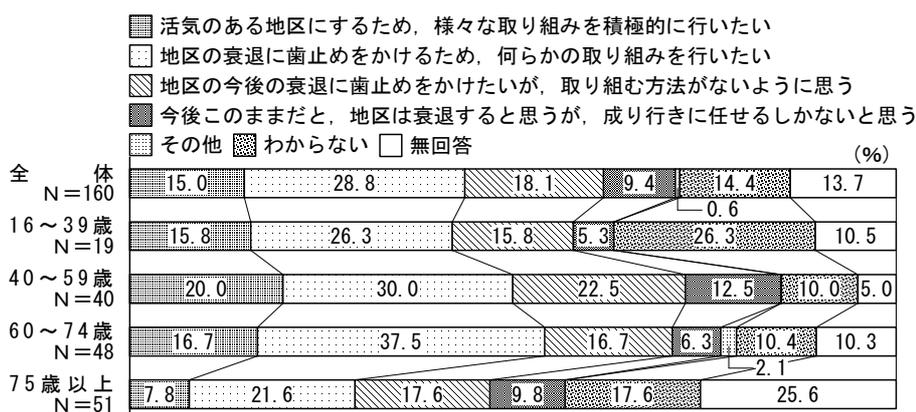


(5) 地区づくりへの参加について

ア 吉田地区の活性化に向けての取り組み意向

地区の活性化に向けての取り組み意向については、「活気のある地区にするため、様々な取り組みを積極的に行いたい」15.0%、「地区の衰退に歯止めをかけるため、何らかの取り組みを行いたい」28.8%で、これらを合わせた地区の活性化を図るために何らかの取り組みをしたいと考えている人は4割以上になっています。

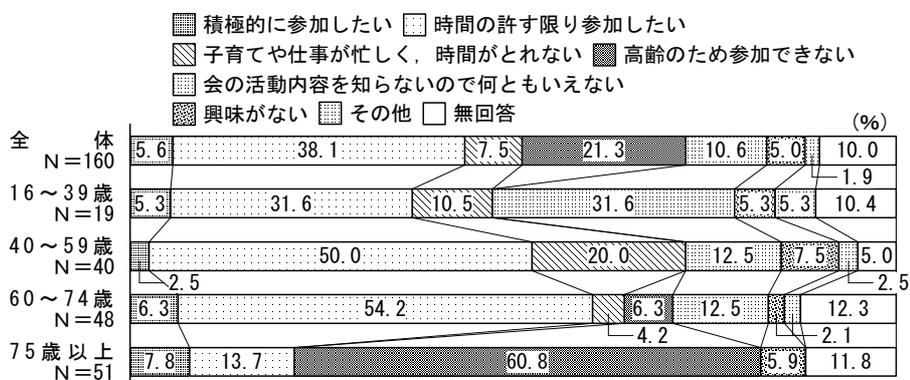
図20 吉田地区の活性化に向けての取り組み意向



イ 吉田自治区の活動への参加意向

吉田自治区の活動への参加については、「積極的に参加したい」5.6%、「時間の許す限り参加したい」38.1%で、これらを合わせた自治区の活動へ参加意向のある人は4割以上です。

図21 吉田自治区の活動への参加意向

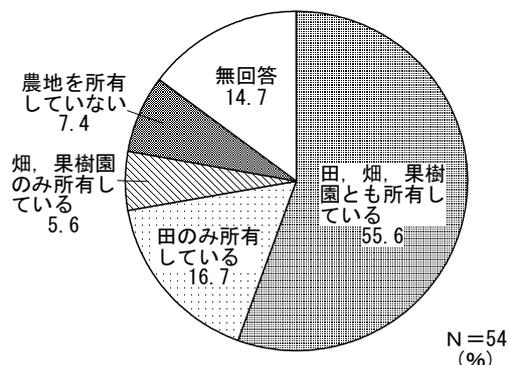


(6) 農地の所有・耕作状況について

ア 農地の所有状況

世帯主であると答えた方の農地の所有状況は、「田，畑，果樹園とも所有している」55.6%，「田のみ所有している」16.7%，「畑，果樹園のみ所有している」5.6%で，これらを合わせた農地を所有している世帯は約8割です。

図22 農地の所有状況



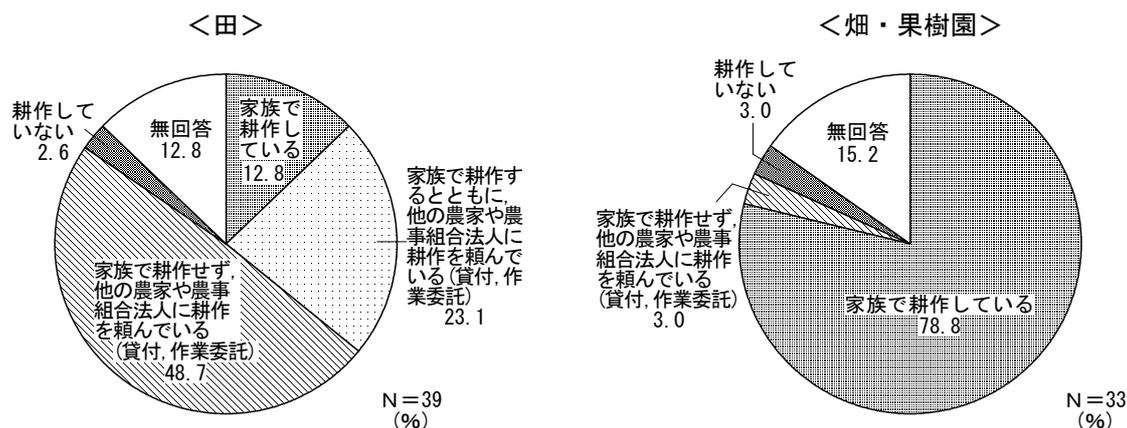
イ 農地を所有している世帯の状況

(ア) 農地の現在の耕作状況

田の現在の耕作状況は、「家族で耕作せず，他の農家や農事組合法人に耕作を頼んでいる（貸付，作業委託）」が48.7%で最も割合が高く，次いで「家族で耕作するとともに，他の農家や農事組合法人に耕作を頼んでいる（貸付，作業委託）」23.1%，「家族で耕作している」12.8%，「耕作していない」2.6%の順で，他の農家や農事組合法人に頼んでいる世帯が7割以上を占めています。

畑・果樹園の現在の耕作状況は，「家族で耕作している」が78.8%で大部分を占めています。

図23 農地の現在の耕作状況



(イ) 農地の今後の耕作意向

田の今後の耕作意向は、「現在と同様の方法で耕作する」が53.8%で最も割合が高く、次いで「家族での耕作面積を減らし、他の農家や農事組合法人に耕作を頼む面積を増やす（貸付、作業委託）」及び「家族での耕作をやめ、他の農家や農事組合法人に耕作を頼む（貸付、作業委託）」10.3%、「わからない」5.1%、「今までどおり耕作しない」2.6%の順になっており、今後、他の農家や農事組合法人への貸付、作業委託のニーズが高まるものと見込まれます。

畑・果樹園の今後の耕作意向は、「現在と同様の方法で耕作する」が69.7%で最も割合が高く、次いで「耕作をやめる」6.1%、「家族での耕作面積を減らし、他の農家や農事組合法人に耕作を頼む面積を増やす（貸付、作業委託）」及び「わからない」3.0%の順で、現在と同様に家族で耕作する意向の世帯が大部分を占めています。

図24 農地の今後の耕作意向

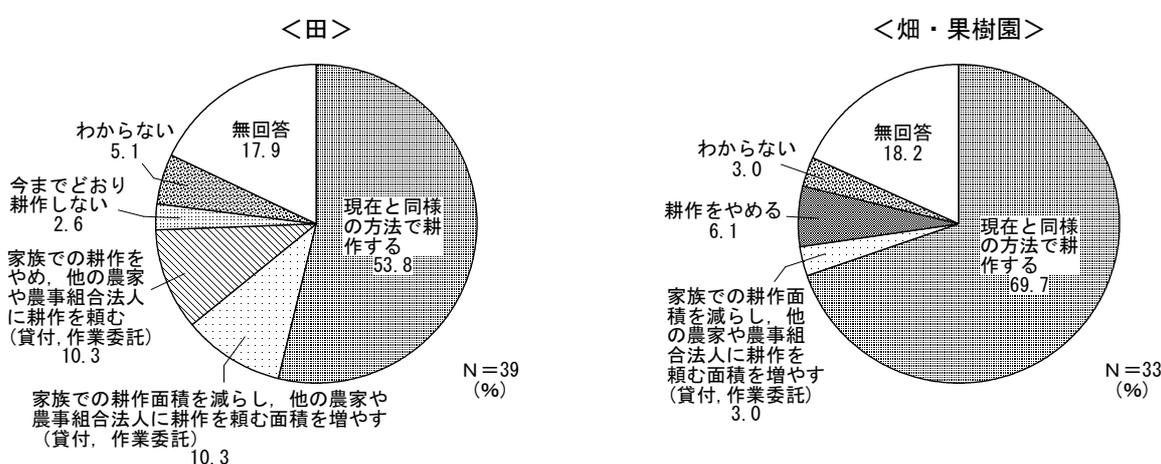


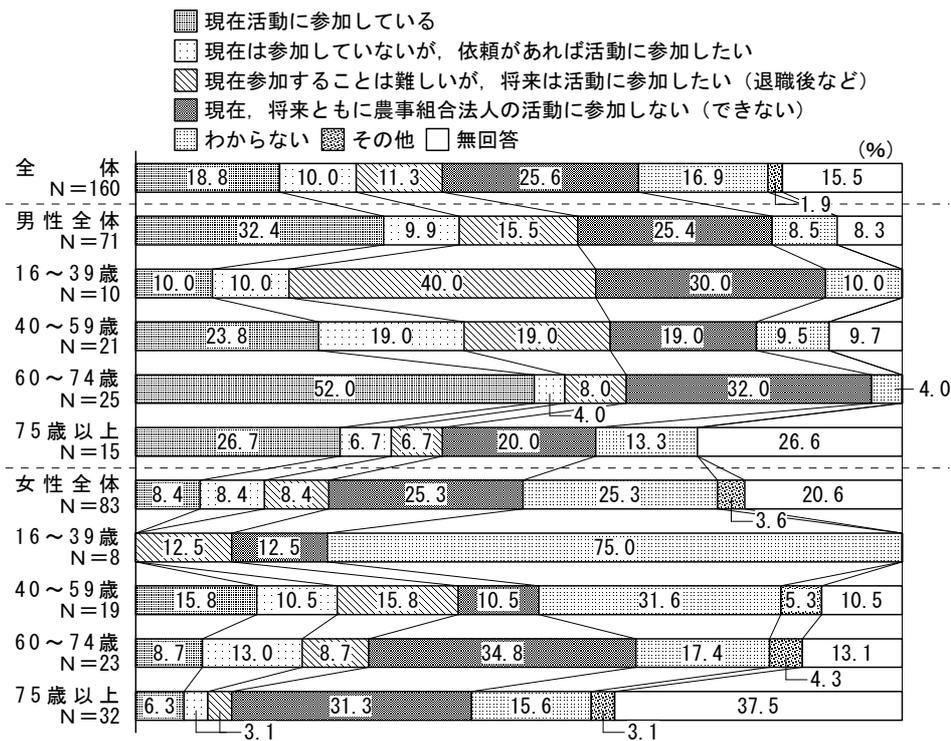
表4 「現在と同様の方法で耕作する」と答えた世帯の現在の耕作方法

耕作方法	田		果樹園	
	世帯 (世帯)	割合 (%)	世帯 (世帯)	割合 (%)
家族で耕作している	2	9.5	22	95.7
家族で耕作するとともに、他の農家や農事組合法人に耕作を頼んでいる (貸付、作業委託)	3	14.3	-	-
家族で耕作せず、他の農家や農事組合法人に耕作を頼んでいる (貸付、作業委託)	15	71.4	1	4.3
無回答	1	4.8	-	-
合計	21	100.0	23	100.0

ウ 農事組合法人などの活動への参加意向

農業の担い手として農事組合法人などの活動への参加意向は、「現在活動に参加している」が18.8%です。また、「現在は参加していないが、依頼があれば活動に参加したい」10.0%、「現在参加することは難しいが、将来は活動に参加したい（退職後など）」11.3%、「現在、将来ともに農事組合法人の活動に参加しない（できない）」25.6%、「わからない」16.9%、「その他」15.5%です。

図25 農事組合法人などの活動への参加意向



2 地区出身者

(1) 回答者自身について

ア 性別

回答者の性別は、「男性」61.0%、「女性」36.6%で、「男性」の割合が高くなっています。

イ 年齢

年齢は、「30歳代」が31.7%で最も割合が高く、次いで「50歳代」22.0%、「40歳代」17.1%、「60～64歳」9.8%、「65～74歳」7.3%、「18～19歳」、「20歳代」及び「75～84歳」2.4%の順で、60歳未満の人が約3/4を占めています。

ウ 住まい

住まいは、「広島県内」65.9%、「広島県外」26.8%です。広島県内の市町をみると、三原市（吉田地区外）が10件で最も多く、次いで広島市9件などの順です。

図26 性別

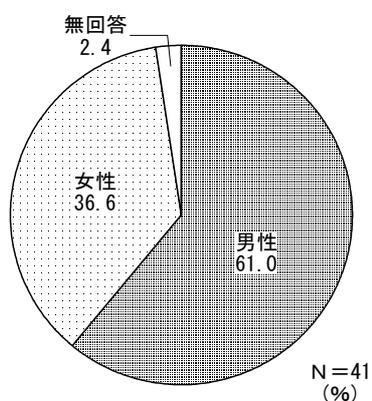


図27 年齢

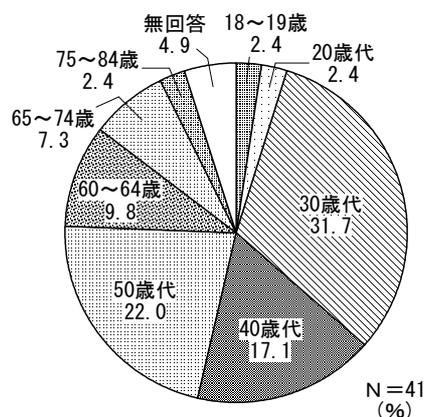


図28 住まい

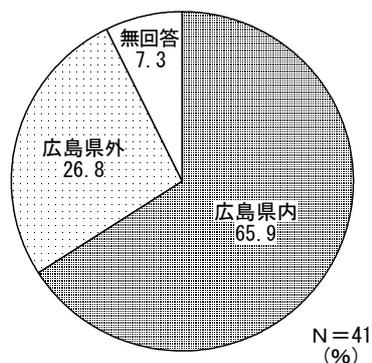


表5 住まいが広島県内の人の内訳

市 町	件数(件)	割合 (%)
三原市	10	37.0
広島市	9	33.3
福山市	3	11.1
東広島市	2	7.4
北広島町	1	3.7
無回答	2	7.5
合 計	27	100.0

エ 地区から転出した時期とその理由

地区からの転出時期は、「19～22歳（大学時代）」が48.8%で最も割合が高く、次いで「23～29歳」19.5%、「16～18歳（高校時代）」14.6%、「30～39歳」4.9%などの順になっています。

地区から転出した理由としては、「就学」が43.9%で最も割合が高く、次いで「新規就職」17.1%、「結婚」7.3%、「転勤」2.4%などの順です。

地区から転出した時期とその理由をみると、女性は男性に比べて転出時期が「23～29歳」、転出理由が「結婚」の割合が高くなっています。

図29 地区から転出した時期

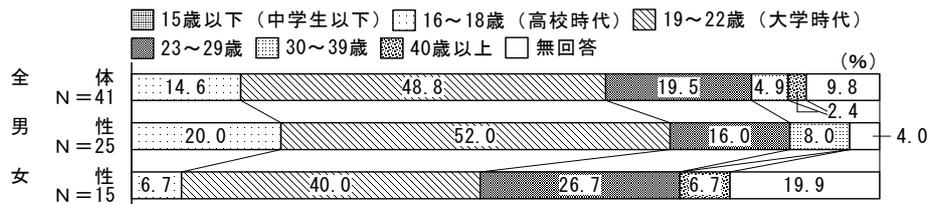
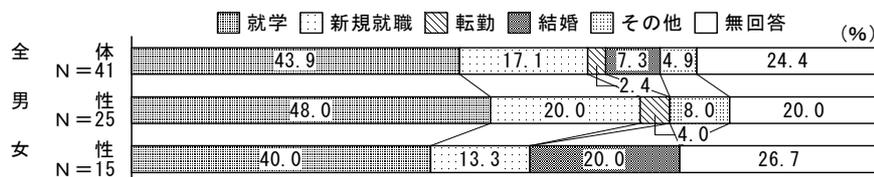


図30 地区から転出した理由



(2) ふるさとへの帰省状況

ア 帰省の回数

ふるさとへの帰省の回数は、「年に数回」が41.5%で最も割合が高く、次いで「月に1～2回」22.0%、「週1回以上」及び「年に1～2回」12.2%の順です。

イ 帰省理由

帰省理由としては、「墓参り，親戚訪問」が41.7%で最も割合が高く、次いで「保養，ゆっくりする」33.3%、「祖父母，親の世話をする」30.6%の順で、これら3項目を挙げた人の割合が高くなっています。

図31 過去1年間の帰省の回数

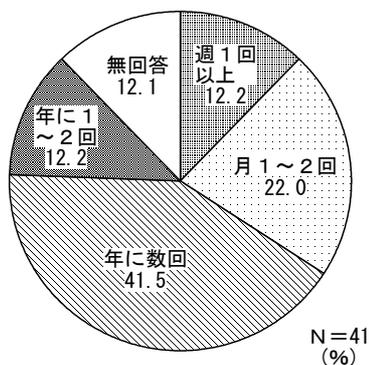
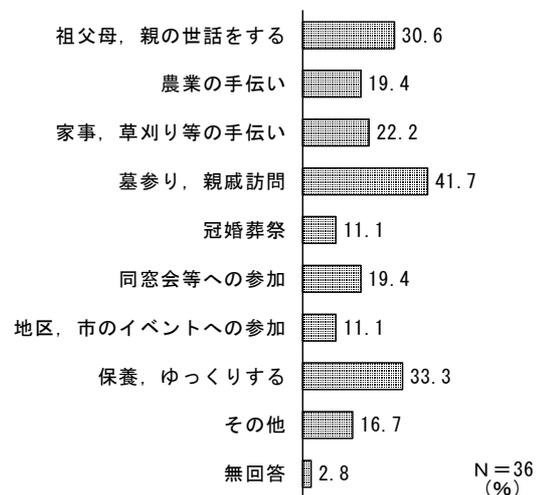


図32 帰省理由（複数回答：いくつでも）



(3) ふるさとへの関心

ア 行事・イベント

行事・イベントへの参加意向は、「参加したい」17.1%、「時々参加したいと思う」36.6%でこれらを合わせた参加意向のある人の割合は5割以上です。

行事・イベントに参加する意向のある人の参加したい行事・イベントは、「夏祭り（盆踊り）」を挙げた人が45.5%で最も割合が高く、次いで「とんど祭り」及び「冬ホテルイルミネーション」36.4%、「祇園祭」18.2%、「ホテル祭り」13.6%などの順です。

図33 行事・イベントへの参加意向

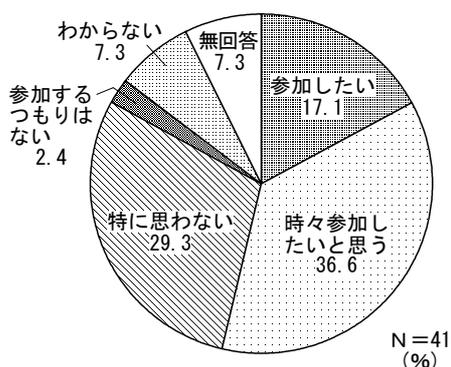
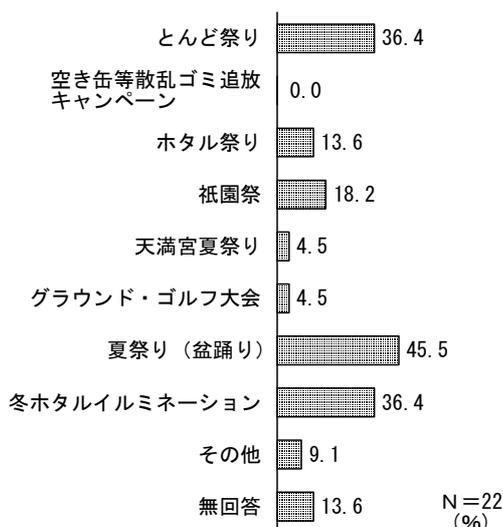


図34 参加したい行事・イベント
(複数回答：いくつでも)



イ ふるさとの情報

「ふるさとの情報を定期的に欲しい」と答えた人は53.7%です。

ふるさとの情報が定期的に欲しいと答えた人の欲しいふるさとの情報は、「地区内の行事・イベント情報」が68.2%で最も割合が高く、次いで「地区内の話題」59.1%、「行政のうごき」40.9%、「特産品等の情報」27.3%、「住宅、空き家情報」及び「求人情報」9.1%の順です。

図35 ふるさとの情報の希望の有無

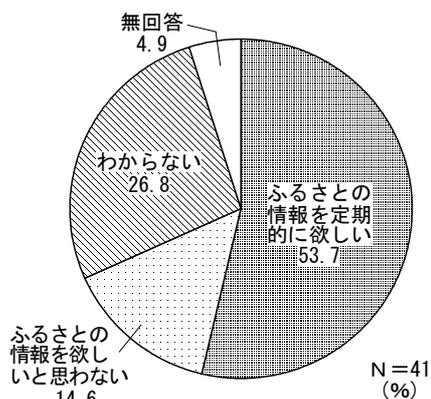
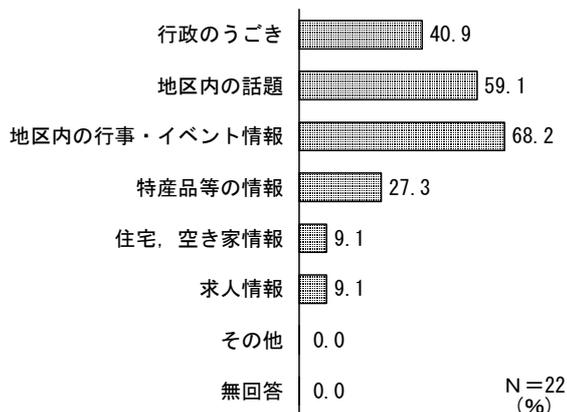


図36 欲しいふるさとの情報
(複数回答：いくつでも)



ウ ふるさとへの帰郷意向

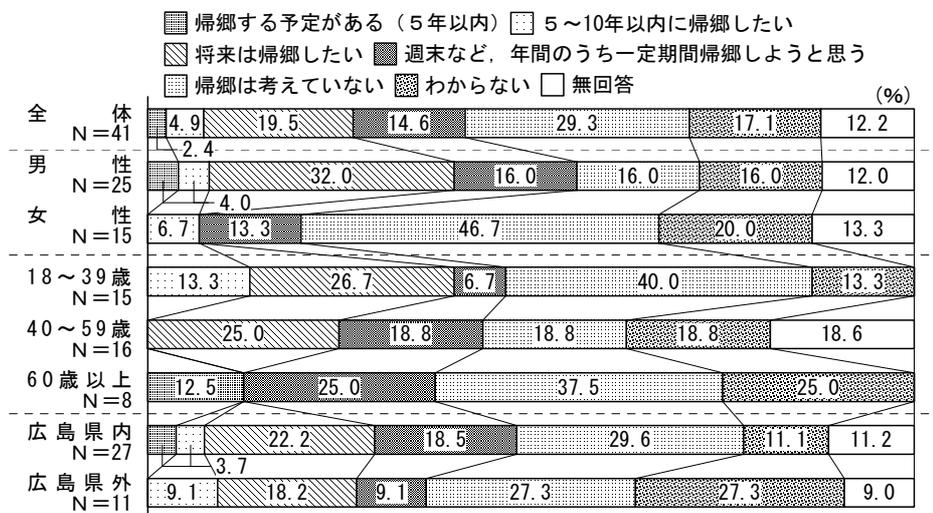
将来のふるさとへの帰郷意向は、「帰郷する予定がある（5年以内）」2.4%、「5～10年以内に帰郷したい」4.9%、「将来は帰郷したい」19.5%で、これらを合わせた帰郷意向のある人の割合は26.8%を占めています。また「週末など、年間のうち一定期間帰郷しようと思う」と答えた人が14.6%です。さらに、「わからない」と答えた人が17.1%です。

男女別に帰郷意向のある人の割合をみると、男性40.0%、女性6.7%です。

年齢別に帰郷意向のある人の割合をみると、18～39歳40.0%、40～59歳25.0%、60歳以上12.5%で、18～39歳の割合が高くなっています。

住まい別に帰郷意向のある人の割合をみると、広島県内29.6%、広島県外27.3%で、ほぼ同様の割合になっています。

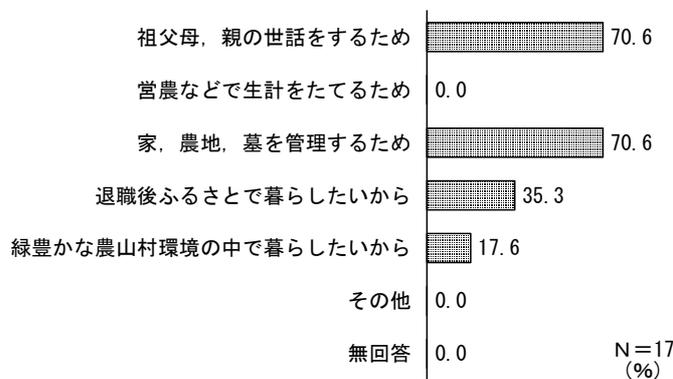
図37 ふるさとへの帰郷意向



エ 帰郷したいと思う理由

帰郷したいと答えた人の帰郷したいと思う理由は、「祖父母、親の世話をするため」及び「家、農地、墓を管理するため」が70.6%で、この2項目を挙げた人の割合が高くなっています。

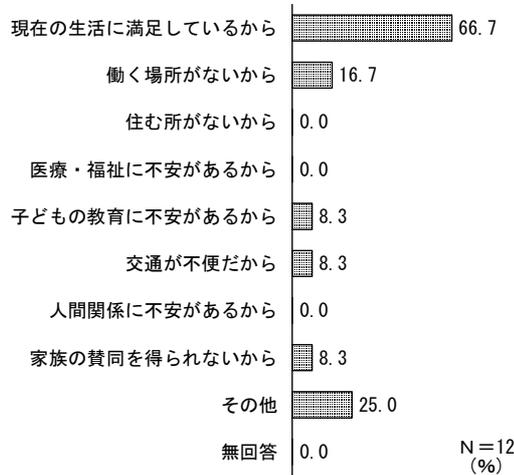
図38 帰郷したいと思う理由（複数回答：いくつでも）



オ 帰郷を考えていない理由

帰郷を考えていない人の理由は、「現在の生活に満足しているから」が66.7%で大部分を占めており、その他では「働く場所がないから」16.7%、「子どもの教育に不安があるから」、「交通が不便だから」及び「家族の賛同を得られないから」8.3%などの順です。

図39 帰郷を考えていない理由（複数回答：いくつでも）



(4) 住宅、農地の管理・活用について

ア 住宅の管理・活用意向

住宅を相続または管理するようになった時の住宅の管理・活用に係る意向をみると、「何ともいえない、わからない」が31.7%で最も割合が高くなっています。その他では、「自分が帰郷して管理する」22.0%、「自分が帰省したときに管理する」17.1%、「実家の近く（吉田地区）に住んでいる家族、親族に管理してもらう」7.3%などの順です。

イ 農地の管理、活用意向

農地を相続または管理するようになった時の農地の管理・活用に係る意向をみると、「中核農家や農事組合法人などに管理を委ねる」が43.9%で最も割合が高く、次いで「何ともいえない、わからない」19.5%、「自分が帰郷して農作業を行う」、「自分が帰省したときに管理する」及び「実家の近く（吉田地区）に住んでいる家族、親族に管理してもらう」7.3%などの順です。

図40 住宅の管理・活用意向

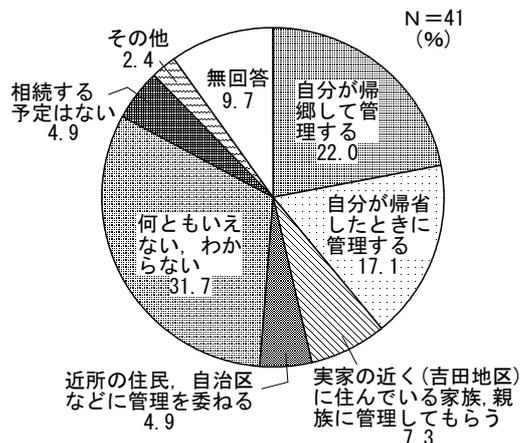
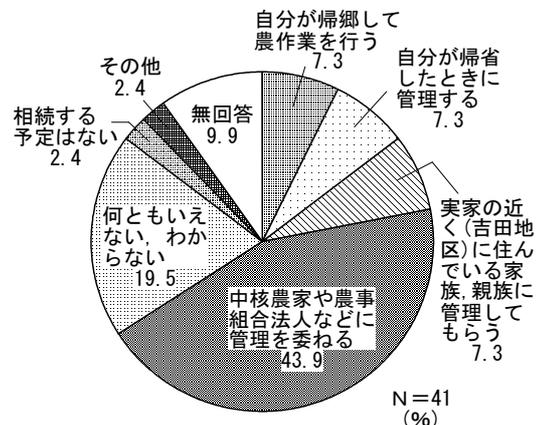


図41 農地の管理・活用意向



(5) ふるさとの今後の地区づくりについて

ア ふるさとで自慢したいもの・次世代に伝えたい資源

ふるさとで自慢したいもの・次世代に伝えたい資源は、「宇根山」が65.9%で最も割合が高く、次いで「久井の岩海」及び「宇根山天文台」63.4%の順で、これら3項目の割合が高くなっています。その他では、「弘法大師像」39.0%、「祇園祭の踊り」36.6%、「宇根山家族旅行村」29.3%、「アイガモ米」22.0%などの順です。

16歳以上の住民の地区で大事にしたい、活用したい資源に関する意見と比較すると、ともに宇根山一帯の観光交流資源、祇園祭の踊りが上位に挙げられています。

図42 ふるさとで自慢したいもの・次世代に伝えたい資源（複数回答：いくつでも）

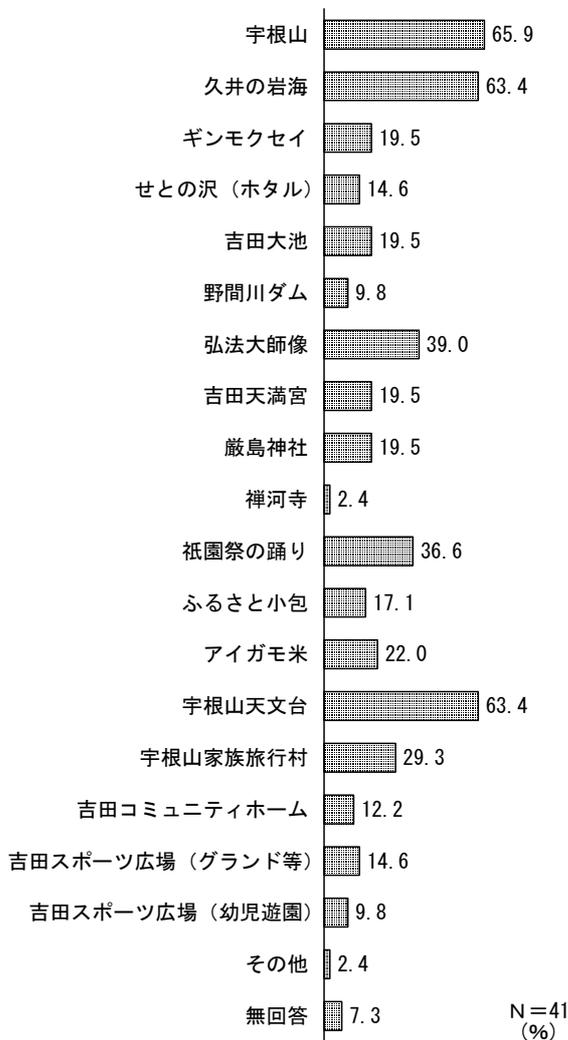


表6 地区の資源に関する意見の比較

（単位：%）

項目	地区出身者	16歳以上の住民
宇根山	65.9	57.5
久井の岩海	63.4	66.3
宇根山天文台		53.1
弘法大師像		32.5
祇園祭の踊り	36.6	44.4
宇根山家族旅行村	29.3	45.6
アイガモ米	22.0	26.3
ギンモクセイ	19.5	23.1
吉田大池	19.5	38.1
吉田天満宮	19.5	35.0
厳島神社	19.5	17.5

イ ふるさとの将来像

ふるさとの将来像は、「誰もが健康でいきいき暮らせるまち」が43.9%で最も割合が高く、次いで「みんなで支え合い、安全・安心に暮らせる福祉のまち」41.5%、「美しい自然・田園環境を維持・保全するまち」39.0%、「子育てがしやすく、若者が住みやすいまち」及び「上下水道や公共交通などの生活環境が整い、快適に暮らせるまち」36.6%の順になっています。

16歳以上の住民の意見と比較すると、「美しい自然・田園環境を維持・保全するまち」及び「上下水道や公共交通などの生活環境が整い、快適に暮らせるまち」の割合が高くなっています。

図43 ふるさとの将来像（複数回答：3つ以内）

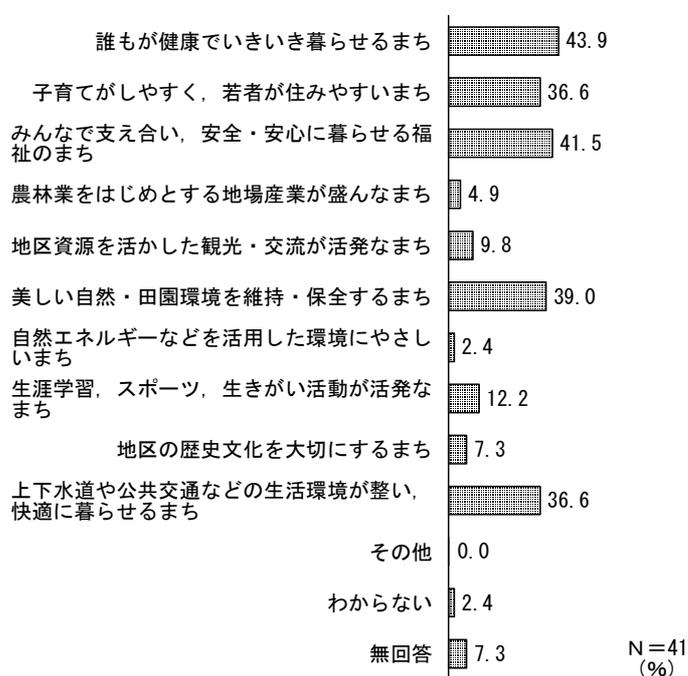


表7 地区の将来像に関する意見の比較

(単位：%)

項目	地区出身者	16歳以上の住民
誰もが健康でいきいき暮らせるまち	43.9	49.4
みんなで支え合い、安全・安心に暮らせる福祉のまち	41.5	47.5
美しい自然・田園環境を維持・保全するまち	39.0	23.8
子育てがしやすく、若者が住みやすいまち		38.1
上下水道や公共交通などの生活環境が整い、快適に暮らせるまち	36.6	16.9

3章 地区の魅力・資源と問題点・課題

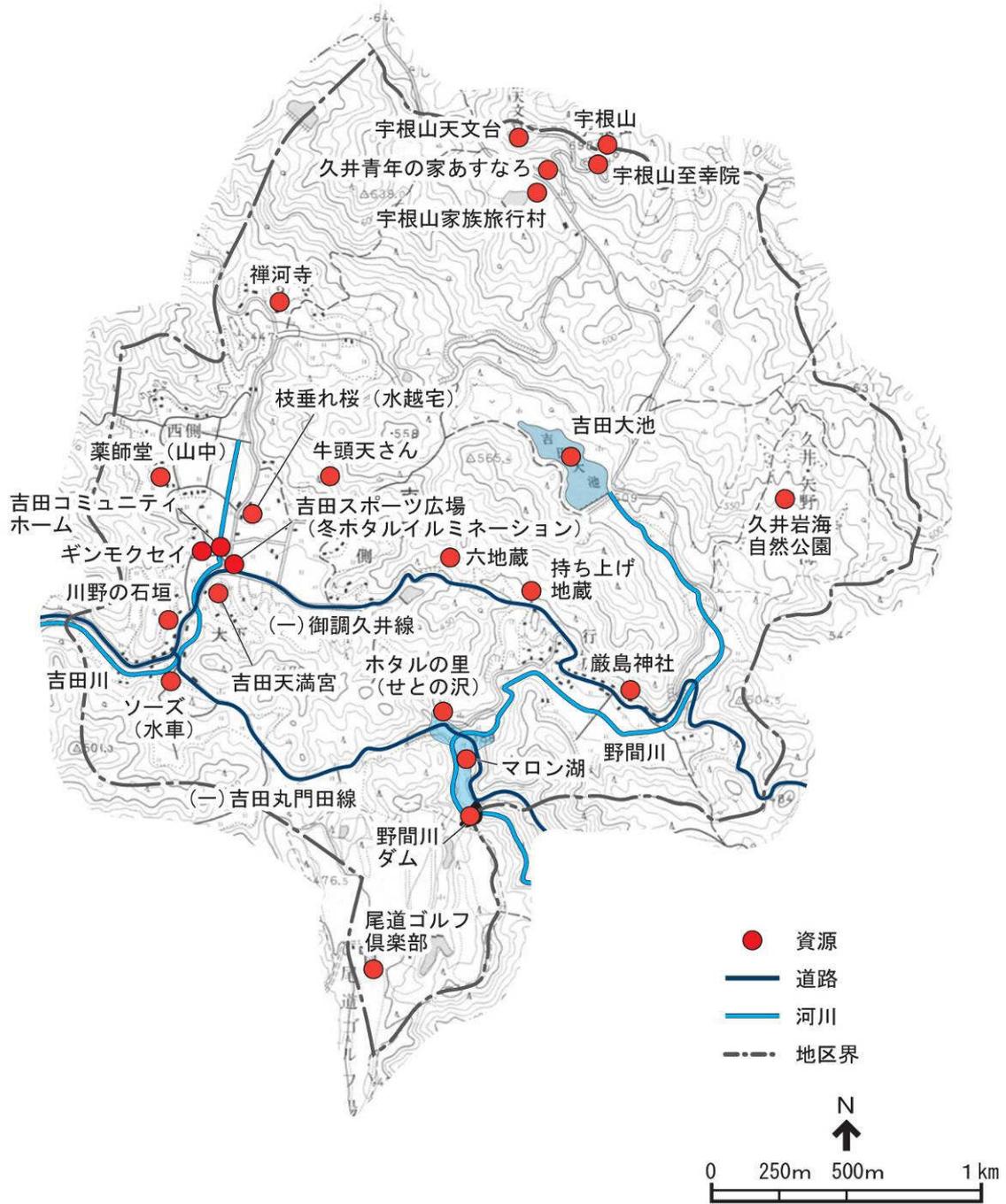
1 地区の魅力・資源

アンケート調査結果及び地区活性化意見交換会（ワークショップ）での意見を踏まえて、地区の魅力・資源を整理すると、次のとおりです。

表8 地区の魅力・資源

区 分	地区の魅力・資源	
自然資源	地形	<ul style="list-style-type: none"> ・見晴らしの良い宇根山（大山や四国連山，広島空港，尾道水道，尾道の住吉祭りの花火が見える等）。 ・宇根山は渡り鳥（タカ）の全国有数の観察スポット。
	河川・水	<ul style="list-style-type: none"> ・野間川，吉田川。 ・吉田大池。 ・水がおいしい（湧き水）。
	星空，観月	<ul style="list-style-type: none"> ・夜空，星がきれい（夜暗い，高い標高で空気の透明度が高い，視界が広い）。 ・夜の晴天率が高い。
	独立樹景観	<ul style="list-style-type: none"> ・ギンモクセイ。 ・枝垂れ桜。 ・山野草（岩海にハナイカダが自生）。 ・田園景観。
	山菜	<ul style="list-style-type: none"> ・タラの芽，わらび，つくし，コシアブラ等の山菜が採れる。
	生息物	<ul style="list-style-type: none"> ・ホタルの里（せとの沢）（ヘイケボタル，ゲンジボタル）。 ・自然が豊かで変わった昆虫（ナナフシ）等がいる。 ・シカ。
歴史文化資源	<ul style="list-style-type: none"> ・宇根山至幸院（弘法大師像等）。 ・吉田天満宮，巖島神社，禅河寺。 ・久井八十八か所の一部が吉田地区にある。 ・六地藏，持ち上げ地藏，牛頭天さん，薬師堂（山中）。 ・川野の石垣。 ・ソーズ（水車）。 ・祇園祭の踊り（傘踊り，獅子舞）。 ・盆踊りの「くどき歌」。 ・吉田地区には昔からの言い伝えがある。 ・吉田天満宮の祭り。 ・田舎芝居のツバキ一座。 	
観光交流資源	<ul style="list-style-type: none"> ・宇根山一帯（宇根山，宇根山無線中継所，宇根山家族旅行村，宇根山天文台，久井青年の家あすなろ）。 ・久井岩海自然公園。 ・野間川ダム（マロン湖）。 ・尾道ゴルフ倶楽部。 	
農地・農業	<ul style="list-style-type: none"> ・地区の農地を2法人（岩海の郷，みのりファーム）が管理している。 ・米（アイガモ米，水車ひき米等のおいしい米）。 ・休耕田。 ・イノシシ肉。 	
地区活動・近隣関係	<ul style="list-style-type: none"> ・吉田コミュニティホーム。 ・吉田スポーツ広場（グラウンド，幼児遊園）。 ・冬ホタルイルミネーション（インターネット，雑誌で紹介され，知名度の高いイベント）。 	

図44 地区の魅力・資源



2 地区の問題点・課題

アンケート調査結果及び地区活性化意見交換会（ワークショップ）での意見を踏まえて、地区の問題点・課題を整理すると、次のとおりです。

表9 地区の問題点・課題

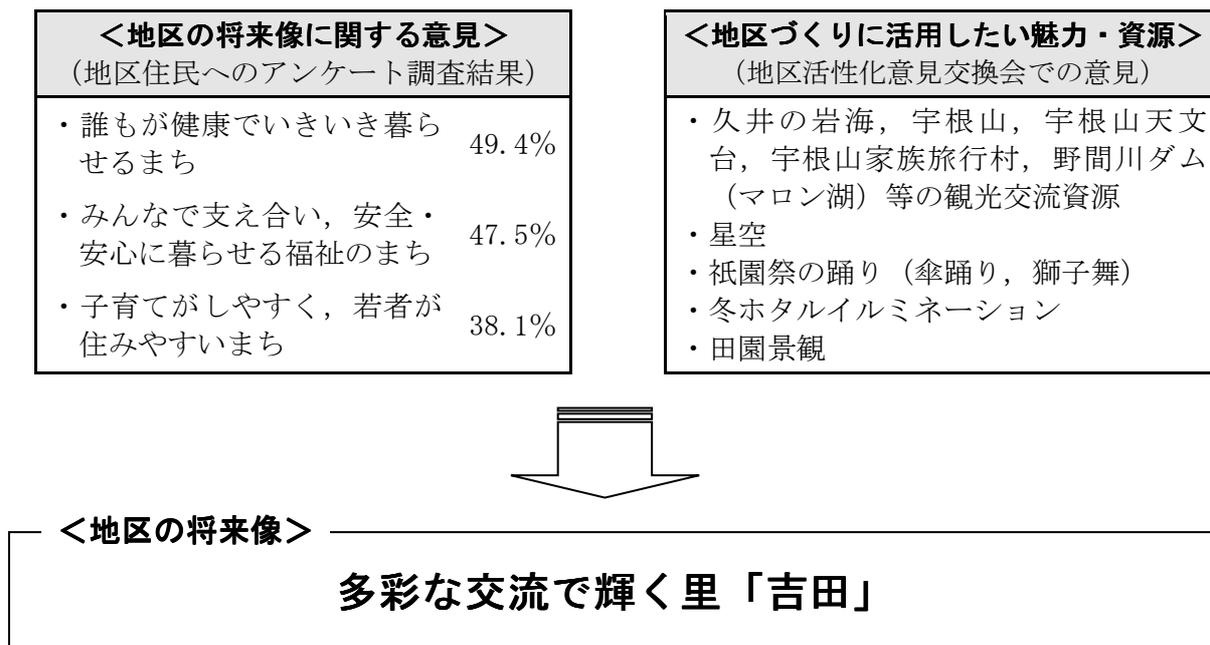
区分	地区の問題点・課題
高齢者の暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のみの世帯の日常生活に不安がある（急病、転倒等）。 ・体力の低下に伴い家事、草刈り等が困難化している世帯がある。 ・運転免許証のない高齢者のみの世帯では買い物、通院する際の交通手段が不便。 ・久井ふれあいバスが不便（運行日、運行回数、行き先等）。 ・地区内で買い物ができない（高齢者サロンへ移動販売車が来ている程度）。 ・自家用車が運転できなくなった時の交通手段が不安。 ・ふれあいサロン以外の交流の場がない（気軽に寄れる場所）。
若者の定住、子ども・子育て	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども、若者が少ない。若者が安心して暮らせない（子育て、病院、学校、仕事）。 ・吉田スポーツ広場（幼児遊園）の遊具が古い。 ・子どもが農林業、川遊び等の地区体験に乏しい。愛着が湧かない。
観光交流	<p><アクセス道路></p> <ul style="list-style-type: none"> ・宇根山一帯へのアクセス道路になっている市道へ雑木が繁茂し、観光バス運行の障害になっている。 ・野間川ダムから宇根山一帯を連絡する道路の一部が狭い。 <p><観光交流施設></p> <ul style="list-style-type: none"> ・久井岩海自然公園には簡易トイレが1つだけで不十分。 ・久井青年の家あすなろの宿泊客が少ない（利用が限定されている）。 ・ギンモクセイの道路からの眺望が悪い。 <p><もてなし></p> <ul style="list-style-type: none"> ・来訪客に対するサービス不足（飲食、土産物等）。 ・観光交流施設、イベントのPR不足。
農地管理・農業	<ul style="list-style-type: none"> ・イノシシ等の有害鳥獣被害への対応。 ・休耕田の増加への対応。 ・農業生産法人の担い手の高齢化への対応。 ・農業生産法人頼みになり、若者の農業離れが進んでいる。
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパー、商店がない、買い物できない。 ・病院が遠く、病気になった時不安である。 ・空き家が増えているが、地域支援員が調査しているのみで地区での取り組みをしていない。
地区活動	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が増加して行事の維持が難しくなっている。 ・気楽に立ち寄れる場所がない。 ・盆踊り、くどき歌、民話等の継承が難しくなっている（継承している高齢者が減少）。

4章 地区の活性化計画

1 地区の将来像

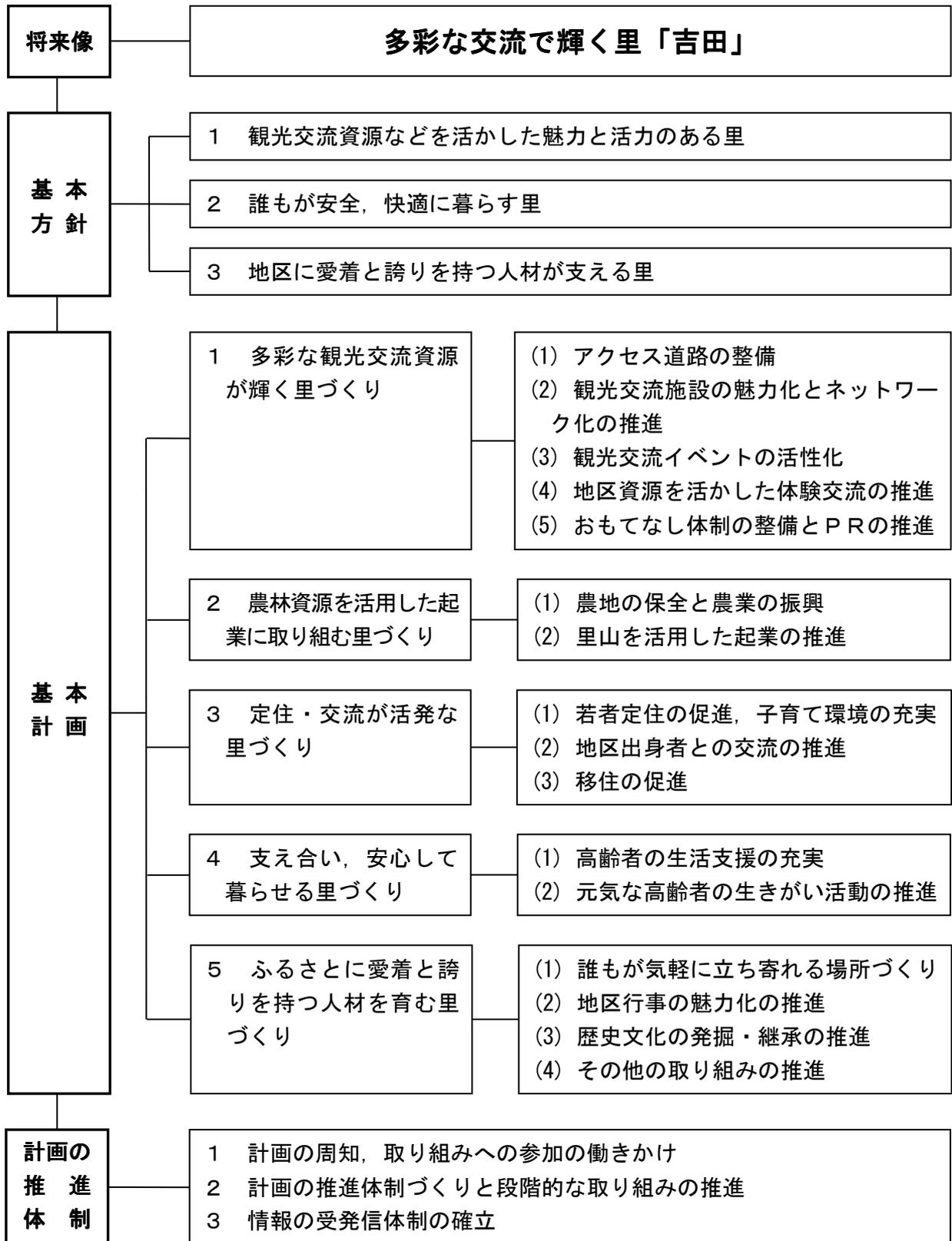
地区の将来像は、アンケート調査結果での地区の将来像に関する意見と地区活性化意見交換会（ワークショップ）での地区づくりの方向に関する意見を踏まえて、“**多彩な交流で輝く里「吉田」**”を掲げます。

図45 地区の将来像



地区の将来像の実現に向けて、地区づくりの基本方針、基本計画及び計画の推進体制を次のように掲げます。

図46 地区づくりの体系



2 地区づくりの基本方針

地区の将来像を実現するために、3つの基本方針を掲げます。

1 観光交流資源などを活かした魅力と活力のある里

- ・観光交流の推進を通じて、農林業の活性化、新たな産業起こしに取り組む里
- ・農林資源を活用して、農産物のブランド化、特産品の開発、事業化に取り組む里
- ・農林地を保全し、美しい田園景観を維持する里

2 誰もが安全、快適に暮らす里

- ・地区の支え合いで、高齢者が健康状態に応じて安全安心に暮らす里
- ・子ども、若者などが環境に馴染み、独自のライフスタイルで定住する里
- ・都市住民、地区出身者に魅力があり、移住が活発な里

3 地区に愛着と誇りを持つ人材が支える里

- ・地区の自然、歴史文化の体験の提供などを通じて、地区に愛着と誇りを持つ人材を育む里
- ・全員参加で、支え合い、助け合い、交流を推進する里

3 地区づくりの基本計画

地区の将来像及び基本方針を踏まえて、地区づくりの基本計画においての5つの柱と主な取り組みを掲げます。

この内容はアンケート調査結果、地区活性化意見交換会（ワークショップ）での意見をもとにとりまとめたものです。

1 多彩な観光交流資源が輝く里づくり

(1) アクセス道路の整備

- ・観光バスの円滑な運行を確保するため、宇根山へのアクセス道路（県道、市道、林道）に茂る雑木の伐採、市道吉田下線の2車線化を道路管理者に働きかけるとともに、自治区においても道路の草刈りなどに取り組みます。

(2) 観光交流施設の魅力化とネットワーク化の推進

ア 観光交流施設の魅力化

(ア) 宇根山家族旅行村一帯

- ・展望台における眺望（大山、四国連山、空港、尾道水道等）を確保するため、雑木の伐採などを行うとともに、全国有数のタカの観察スポットであることのPRに取り組みます。
- ・来訪客に対するおもてなしを強化するため、農産物直売所の設置（飲食、農産物の直売、観光案内等）に取り組みます。
- ・宇根山家族旅行村一帯の魅力化を図るため、宇根山天文台の天体観測機能の充実、久井青年の家あすなろの修繕、グラウンド・ゴルフ場、フィールドアスレチック、射撃場の整備、キャンプ場の増設などを行政に働きかけます。

(イ) 久井岩海自然公園

- ・来訪客が岩海を楽しめるように、岩海の奇石のネーミングに取り組みます。
- ・岩海を舞台とした神楽の上演、岩海イルミネーションなど特徴のあるイベントの開催に取り組み、来訪客の集客を図ります。
- ・来訪客に対するおもてなしを充実するため、公園内へのトイレ・休息施設の整備を行政に働きかけます。

(ウ) 野間川ダム（マロン湖）

- ・広島県に野間川ダム（マロン湖）周辺の環境整備（案内看板の設置，桜，紅葉，シバグ
リ等の植栽等）の促進を働きかけるとともに，本地区を活用したイベントの開催に取り
組めます。

(エ) ギンモクセイ

- ・ギンモクセイ（県指定天然記念物，新日本名木百選）一帯の魅力の向上を図るため，観
賞を阻害している老朽建物の撤去，花きの植栽，休息施設の整備などに取り組みます。
- ・地区の美しい景観を特徴づけるために，住民の理解のもとにギンモクセイの植栽を推進
し，ギンモクセイの里づくりに取り組みます。

表10 重点的に取り組みたい事業1

事業名称	ギンモクセイの里づくり事業
事業目的	・ギンモクセイを柱とした特徴のある景観づくり
事業内容	・自治区に専門部の設置 ・地区を象徴する吉田のギンモクセイ（県指定天然記念物）が植樹されてい る一帯の環境整備（老朽建物の解体撤去，花木の植栽，案内標識，ベンチ の設置等） ・地区全体でギンモクセイの植樹，特徴のある景観づくり
事業の年 次計画	・初年度：ギンモクセイの里づくり計画の作成 ギンモクセイ（県指定天然記念物）一帯の環境整備 各戸へギンモクセイの植栽の働きかけ（種子の配布） ・2年度：イベント開催（ギンモクセイ開花時期）
事業経費 の内訳	・初年度：建物解体撤去費，ギンモクセイ，花の種子購入費，案内標識作 成，ベンチ設置費等 ・2年度：イベントPR費等
その他の 留意事項	・土地所有者の了解

(オ) その他の取り組み

- ・吉田大池周辺に遊歩道を整備するとともに，湖水面利用（貸しボートの設置，アヒル，
白鳥の飼養）の可能性を検討します。
- ・宇根山天文台と連携して天体観測のメッカとしてPRし，愛好家の集客を促進します。

イ 観光交流施設のネットワーク化の推進

- ・宇根山家族旅行村一帯，久井岩海自然公園，吉田大池，野間川ダム（マロン湖）などの
周遊を促進するため，案内標識の整備に取り組みます。
- ・サイクリング，ウォーキングコースとして利用されるように，道路沿道の魅力づくり
（花の植栽，ベンチの設置，道路勾配，観光交流施設間の距離表示等）に取り組みます。

(3) 観光交流イベントの活性化

ア 冬ホテルイルミネーション

- ・冬の風物詩として、「るるぶ」及び「じゃらん」などで紹介されている「冬ホテルイルミネーション」を一層盛り上げるため、冬ホテルイルミネーション実行委員会の活動を地区全体で支援するとともに、地区外の大学生などの若者の応援を受けて準備・実施する体制づくりに取り組みます。
- ・会場となる吉田スポーツ広場は水はけが悪いことから、雨天時、降雪時も観賞できるように、グラウンドの土の改良、排水施設の整備を行政と連携して取り組みます。

表11 重点的に取り組みたい事業2

事業名称	冬ホテルイルミネーション活性化支援事業
事業目的	・冬ホテルイルミネーションを活用した地区の活性化（来訪客の拡大と観光消費の促進）
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体に専門部会の設置 ・冬ホテルイルミネーションの支援体制づくり（自治体の支援，県立広島大学等の大学生の応援等） ・水はけの悪いグラウンドの整備 ・来訪客に対する飲食サービスの充実，特産品，吉田グッズの開発，販売体制づくり ・各家へのイルミネーション設置の働きかけ
事業の年次計画	<ul style="list-style-type: none"> ・初年度：冬ホテルイルミネーション支援体制づくり 各家へのイルミネーション設置の働きかけ グラウンド整備に係る行政との調整 ・2年度：グラウンドの整備
事業経費の内訳	<ul style="list-style-type: none"> ・初年度：イベント開催支援費等 ・2年度：グラウンド整備費等
その他の留意事項	・冬ホテルイルミネーション実行委員会との連携

イ その他の取り組み

- ・宇根山天文台が開催する各種イベントを支援するとともに，地区の観光交流資源を活用した新たなイベントづくり（久井岩海自然公園：岩海イルミネーション，野間川ダム（マロン湖）：マロン湖祭り（仮称），吉田地区ウォーキング大会（仮称）等）に組み込みます。

(4) 地区資源を活かした体験交流の推進

- ・地区の観光交流資源，自然資源，歴史文化資源，農林業資源などを活用して体験交流の場の提供に取り組みます。
- ・本地区には，宿泊施設として宇根山家族旅行村（キャンプ場），久井青年の家あすなろがあり，日帰りだけでなく星空を満喫できる宿泊体験型の交流にも取り組みます。

表12 重点的に取り組みたい事業3

事業名称	吉田まるごと体験ツアー実施事業
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・吉田の観光交流資源を活用して都市住民等との交流の推進（交流を通じて地区の魅力の再発見） ・地区内での観光消費を通じた地区の活性化
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体に専門部会の設置 ・体験交流メニューの作成 <ul style="list-style-type: none"> ・自然：宇根山，久井の岩海，天体観測，吉田大池，野間川ダム（マロン湖），ギンモクセイ，山野草，山菜採り等 ・歴史文化：祇園祭の踊り，盆踊りの「くどき歌」，吉田天満宮の祭り，田舎芝居一座 ・農林業：そばの植え付け，そば打ち，稲作（田植え，稲刈り），芋掘り，山林の間伐，間伐材を活用した木工等 ・体験交流ツアー企画（対象別，時期別）及び実施体制の検討 ・三原観光協会と連携した観光交流情報の発信，体験交流ツアーの実施（市内の小中学校との連携も検討） ・モニターツアーの実施（現在行っているそば植え，そば打ち体験等を核とした体験交流）
事業の年次計画	<ul style="list-style-type: none"> ・初年度：事業計画の作成，体験交流ツアー実施体制づくり，三原観光協会との連携体制づくり，モニターツアー（そば打ち体験）の実施 ・2年度：体験交流事業の本格実施
事業経費の内訳	<ul style="list-style-type: none"> ・初年度：先進地視察費，モニターツアー実施委託費（三原観光協会によるPR，参加受付），そば種子購入費等 ・2年度：体験交流ツアー実施委託費（三原観光協会によるPR，参加受付）等
その他の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・メニュー別体験交流ツアー受け入れ体制づくり（地区での人材の確保）

(5) おもてなし体制の整備とPRの推進

- ・観光交流を推進するため自治体に観光交流部を設置し，観光交流施設の魅力化，観光交流イベントの活性化，体験交流の推進，案内看板の整備，観光ガイド，体験交流インストラクターの養成などに取り組みます。
- ・地区の魅力を広域的に発信するために，インターネット，観光雑誌などを活用したPRを推進します。

2 農林資源を活用した起業に取り組む里づくり

(1) 農地の保全と農業の振興

ア 地区を挙げての有害鳥獣対策の推進

- ・地区を挙げて有害鳥獣対策を推進するため、農業生産法人などと連携して有害鳥獣撃退委員会（仮称）を設置し、住民の狩猟免許の取得、箱罾の設置などの支援に取り組みます。

イ 農業生産法人を核とした農地の保全体制の維持

- ・吉田地区においては2つの農業生産法人が水田のほとんどを管理しており、こうした管理体制の維持に係る支援に取り組みます。
- ・今後、農業生産法人の担い手の高齢化が危惧されるため、地区の若者が農業に関心を持ち、農業に参入するように農業塾の開催に取り組みます。

ウ 休耕田の活用

- ・休耕田を活用して、市民農園の運営（地元で管理し、使用料、管理料を得る）に取り組みます。
- ・休耕田を元気な高齢者の野菜生産の場として活用し、宇根山家族旅行村などでの農産物直売に取り組みます。

エ 農業の振興

- ・農業生産法人と連携して、吉田の米のブランド化（名称は「久井の岩海米」）に取り組みます。
- ・吉田の山の幸、里の幸の加工品開発（米、野菜等を活用した特産品開発：冷凍ライス、どぶろく等）に取り組みます。
- ・イノシシ肉を特産品とし、イノシシの里づくりに取り組みます。（世羅西にある肉処理施設と連携）
- ・開設する吉田のホームページで、米、特産品のPR、販売に取り組みます。

(2) 里山を活用した起業の推進

- ・シバグリ等の木の実、間伐材及び竹等を活用した特産品開発に取り組みます。
- ・山野草の再生（リンドウ、カワラナデシコ、ササユリ等）に取り組み、景観資源として活用を図ります。
- ・岩海の水の活用を検討するため、水質調査に取り組みます。

3 定住・交流が活発な里づくり

(1) 若者定住の促進, 子育て環境の充実

ア 若者定住の促進

- ・子どもに地区固有の様々な体験を提供することにより、地区に対する愛着と誇りを醸成し、定住の促進に結びつけます。
- ・地区で若者に仕事を斡旋する仕組みづくりに取り組みます。

イ 子育て環境の充実

- ・子どもを安心して育てることができるように、子どもの送迎、見守り、看病などの支援を行う「子どもお助け隊（仮称）」の設置に取り組みます。
- ・吉田スポーツ広場（幼児遊園）の利用を促進するため、日陰づくり（日よけテントの設置、樹木の植栽等）に取り組みます。

(2) 地区出身者との交流の推進

- ・地区出身者に対して定期的な便りの送付やインターネットを通じての情報発信に取り組み、地区行事への参加、特産品の購入、地区づくりの応援、将来的なUターンなどに結びつけます。
- ・住宅及び農地などを相続している地区出身者に対しては、住宅及び農地管理に係る相談支援に取り組みます。

表13 重点的に取り組みたい事業4

事業名称	吉田ふるさとリメンバー事業
事業目的	・吉田地区出身者にふるさと「吉田」での記憶を思い出してもらい、地区づくりを応援してもらうとともにUターンに結びつける
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・自治区に専門部会の設置 ・地区出身者名簿の作成 ・地区情報の発信（地区便り、吉田地区のホームページ等） ・地区出身者アンケートの実施（地区情報希望の有無等） ・地区出身者に対する地区便り（地区行事案内等）、ふるさと製品の送付 ・ふるさと製品は1年目無料、2年目以降有料
事業の年次計画	<ul style="list-style-type: none"> ・初年度：地区出身者名簿の作成（各家に対する協力依頼、同窓会名簿等） ・2年度：地区出身者に対するアンケート調査（地区情報希望の有無等） ・3年度：希望者に無料で地区便り、ふるさと製品の送付 ・4年度：ふるさと会員制度の導入（地区便り、ふるさと製品送付）
事業経費の内訳	<ul style="list-style-type: none"> ・初年度：郵送費等 ・2年度：アンケート調査印刷費・郵送費等 ・3年度：地区便り印刷費、ふるさと製品購入費、郵送費等 ・4年度：会費による事業運営（会費収入で地区便り、ふるさと製品送付）
その他の留意事項	・地区出身者名簿の作成、名簿の管理体制

(3) 移住の促進

- ・地区のホームページを通じて、農林業の担い手、芸術家など地区づくりに必要な人材の移住を働きかけます。
- ・移住希望者の住宅を確保するため、地域支援員と連携して空き家の確認、所有者の意向把握などに取り組み、売買・賃貸意向のある物件について市の空き家バンクへの登録を働きかけます。
- ・移住希望者に対する相談支援体制づくり（おためし居住、住宅取得、近隣づきあい等）に取り組みます。

4 支え合い、安心して暮らせる里づくり

(1) 高齢者の生活支援の充実

ア 見守りの充実

- ・一人暮らしをはじめとする高齢者のみの世帯に対して、組内（分会）で支え合う仕組みを基本としつつ、民生委員・児童委員、見守りサポーターを中心とする総合的で効果的な相談支援、見守り体制づくりに取り組みます。
- ・一人暮らしをはじめとする高齢者のみの世帯に対して、福祉ベルなどの緊急通報装置の配布を検討します。
- ・一人暮らしをはじめとする高齢者のみの世帯が元気に生活していることを近隣住民が手軽に確認できる方法（郵便ポストへ黄色い旗を立てる等）を検討します。

イ 外出の支援

- ・自家用車を運転できない高齢者を対象として、住民が外出の支援を行う仕組みづくりに取り組みます。（特に、料金、事故時の対応等を十分に検討）
- ・地域内交通手段の久井ふれあいバスについて、久井地域全体で今後のあり方（久井ふれあいバスの改善、デマンドタクシーの導入等）を検討し、行政と連携して交通手段の充実に取り組みます。

ウ 買い物支援

- ・ふれあいサロン開催日に月2回移動販売を依頼している事業者には、地区全体を対象とした移動販売を働きかけます。その際、自治区で希望者の把握、販売場所、運行日などを調整し、移動販売事業者と協議します。
- ・近隣住民が声かけして、外出が難しい高齢者の買い物代行に取り組みます。
- ・生協と連携した宅配システムの充実を検討します。

エ 食事の支援

- ・食事づくりが難しくなっている高齢者のみの世帯を対象として、配食サービスなどの食事支援（配食弁当業者との連携、ふれあいサロンでの食事提供、ボランティアによる弁当配食等）を検討します。

オ 総合的な支援体制づくり

- ・高齢者の日常生活を総合的に支援するため、「高齢者おたすけ隊（仮称）」の設置・運営に取り組みます。既に行われている社会福祉協議会、シルバー人材センター、介護サービス事業者（ホームヘルプサービス等）のサービスとの役割分担に配慮して、事業に取り組みます。

表14 重点的に取り組みたい事業5

事業名称	高齢者おたすけ隊（仮称）設置・運営事業
事業目的	・高齢者の日常生活の支援
事業内容	・自治区に専門部会の設置 ・対象者：75歳以上の一人暮らし、夫婦のみの世帯等 ・事業計画の作成（支援内容、料金、受付体制等） ・希望者、支援者の登録（支援者は支援できることを具体的に記載） ＜支援内容、料金の例＞ ・支援内容：家事、庭・墓掃除、買い物（草刈りはシルバー人材センターとする） ・料金：500～1,000円／時間（社会福祉協議会、シルバー人材センターのサービスとのバランスに配慮）
事業の年次計画	初年度：事業計画の作成、事業のPR、希望者、支援者の募集、登録 2年度：事業開始
事業経費の内訳	初年度：先進地視察費、PRパンフ印刷費、パソコン（登録者整理）等 2年度：受付電話料（携帯電話1台）等
その他の留意事項	・社会福祉協議会、シルバー人材センター、介護サービス事業者との連携、役割分担

(2) 元気な高齢者の生きがい活動の推進

- ・元気な高齢者が地区の中で様々な社会貢献ができるように、高齢者おたすけ隊（仮称）への担い手として参加、農林業における軽作業への参加など、様々な参加機会の提供に取り組みます。
- ・ふれあいサロンなど地区の高齢者が気楽に集い、交流できる場の充実に取り組みます。

5 ふるさとに愛着と誇りを持つ人材を育む里づくり

(1) 誰もが気軽に立ち寄れる場所づくり

- ・吉田コミュニティホーム周辺に、誰もが気軽に立ち寄り、団らんでできる施設の設置に取り組みます。この施設の近くに、高齢者が気軽に運動できる軽運動器具の設置を検討します。

表15 重点的に取り組みたい事業6

事業名称	吉田交流サロン設置・運営事業
事業目的	・誰もが気軽に立ち寄れる場所づくり（鍵をかけず、何時でも立ち寄り可能な場所）
事業内容	・吉田コミュニティホーム周辺に10～12畳のプレハブの設置 ・机、イス、自動販売機、エアコンの設置
事業の年次計画	初年度：場所の選定、プレハブ施設（中古）の購入、設置 机、イス、エアコン等の備品は住民の寄付で対応 2年度：事業開始
事業経費の内訳	初年度：プレハブ施設（中古）の購入費等 2年度以降：施設管理費等
その他の留意事項	・プレハブ施設の管理方法（夜間の管理、光熱水費）の検討

(2) 地区行事の魅力化の推進

- ・せとの沢のホタル養殖、ホタル祭りを盛り上げるため、地区全体で応援する体制づくりに取り組みます。
- ・夏祭りの見直し（若者、地区出身者の意見の把握）に取り組み、参加の促進を図ります。
- ・初日の出イベント（吉田コミュニティホームから宇根山まで歩き、初日の出を拝み、お屠蘇とうどんをいただく）の復活に取り組みます。

(3) 歴史文化の発掘・継承の推進

- ・地区の歴史文化の発掘・継承を図るため、吉田郷土誌（仮称）、伝統芸能DVDの作成、衣装、道具の修繕などに取り組みます。
- ・こうした教材を活用した学習活動を推進し、地区に対する理解を深めるとともに地区への愛着と誇りを持つ子ども、若者の育成に結びつけます。

表16 重点的に取り組みたい事業7

事業名称	吉田地区歴史文化伝承事業
事業目的	・歴史文化の継承，地区への愛着と誇りを持つ子ども，若者の育成
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史文化継承委員会の設置，事業計画づくり ・古文書，写真の収集，高齢者に対する聞き取り等による吉田郷土誌（仮称）の作成 ・祇園祭の踊り，夏祭りのくどき歌等を継承するためのDVDの作成，衣装，道具の修繕 ・現存する歴史文化財の関係機関と連携した調査，整備（久井八十八か所等） ・吉田郷土誌（仮称），伝統芸能DVDの地区住民，地区出身者への配布
事業の年次計画	<ul style="list-style-type: none"> ・初年度：事業計画の作成，備品の購入，住民，地区出身者への協力依頼，祇園祭等の衣装，道具の修繕 ・2年度：高齢者の聞き取り，古文書，写真の収集，整理，祇園祭の踊り，夏祭りのくどき歌等の伝統芸能DVDの作成 ・3年度：吉田郷土誌（仮称）の作成，印刷，配布 地区行事での歴史文化写真展の開催等 ・4年度：地区行事での歴史文化写真展の開催
事業経費の内訳	<p>初年度：パソコン，スキャナー，プリンター購入費（高齢者の聞き取り，古文書，写真の整理等），郵送費等</p> <p>2年度：伝統芸能DVDの作成費，聞き取り高齢者への謝金等</p> <p>3年度：吉田郷土誌（仮称）印刷費，郵送費，イベント展示品作成費等</p> <p>4年度：イベント展示品作成費等</p>
その他の留意事項	・郷土誌家，大学との連携

(4) その他の取り組みの推進

- ・良好な近隣関係を一層強化するため、挨拶運動に取り組みます。
- ・吉田の美しい田園景観を維持するために、道路の草刈り、河川清掃、道路・畦への花の植栽などに取り組みます。道路、河川の保全に当たっては広島県アダプト制度の活用を図ります。
- ・高齢者をはじめとする住民の身体状況の急変に対応するため、AED（自動体外式除細動器）を活用した救急救命研修会の開催などに取り組みます。

注：広島県アダプト制度とは、道路、河川の美化に取り組む住民団体・事業所などを、広島県が「アダプト認定団体」に認定し、広島県及び三原市が活動を支援する制度。

4 計画の推進体制

(1) 計画の周知，取り組みへの参加の働きかけ

- ・地区住民へあらゆる機会を通じて「輝く里吉田夢プラン」を周知するために、「輝く里吉田夢プラン」概要版の全戸配布，自治区及びその他の地区組織の会合で「輝く里吉田夢プラン」の説明を行うとともに，今後の取り組みへの参加を働きかけます。

(2) 計画の推進体制づくりと段階的な取り組みの推進

ア 計画の推進体制づくり

- ・人口が減少する中で，元気な住民全員の参加による地区づくり推進体制を確立します。（特に，若い世代の参加の働きかけ）
- ・吉田地区の各種団体との連携を強化し，一体的かつ幅広い活動を推進します。
- ・人材バンクの設置，登録により，適材適所の人材活用（できる人，やりたい人，ボランティア）を行います。

イ 段階的な取り組みの推進

- ・計画の優先順位付け（地区の重点課題への対応）を行い，段階的な取り組みを推進します。

＜重点的に取り組みたい事業＞

- ・ギンモクセイの里づくり事業
- ・冬ホタルイルミネーション活性化支援事業
- ・吉田まるごと体験ツアー実施事業
- ・吉田ふるさとリメンバー事業
- ・高齢者おたすけ隊（仮称）設置・運営事業
- ・吉田交流サロン設置・運営事業
- ・吉田地区歴史文化伝承事業

ウ 取り組みへの多様な担い手の参加の確保，人材の育成

- ・住民，各種団体，企業などとの連携を強化します。
- ・地区出身者及び都市住民の応援，三原市などの支援を活用します。
- ・講習会，研修会，先進地視察などの実施による人材の育成を図ります。

(3) 情報の受発信体制の確立

ア 地区内向けの情報発信

- ・地区便りの発行に取り組みます。
- ・若者世帯などに対し、インターネットを活用した情報の発信に取り組みます。

イ 地区外向けの情報発信

- ・インターネットを活用した吉田地区の情報発信体制づくりを行い、地区出身者、都市住民に対して地区の魅力・活動（年間行事・祭りカレンダー）、空き家情報などを発信することにより、交流を推進します。

ウ 人材の確保

- ・吉田自治区のホームページを管理，活用できる人材を確保，育成し，タイムリーな情報の発信体制を確立します。

資料 計画策定の取り組み

1 吉田地区地域計画策定委員会名簿

番号	名 前	役 職	所属団体
1	前石 和昭	委 員 長	吉田自治区長
2	東 正三	副委員長	吉田自治区副区長
3	保永 哲通	事務局長	吉田自治区書記
4	寄金 紀昭	委 員	吉田自治区会計
5	谷川 好男	委 員	久井稲生神社総代
6	竹広 光昭	委 員	吉田天満宮総代
7	法堂 陽子	委 員	民生委員児童委員
8	中田 由紀子	委 員	生活部長
9	川野 克彦	委 員	管理部長
10	寄金 澄美	委 員	福祉保健部長
11	山口 信光	委 員	老人クラブ会長
12	仁田 賢次	委 員	学識経験者
13	山根 則行	委 員	農事組合法人岩海の郷代表
14	西谷 健	委 員	有限会社吉田農ファーム代表

2 地区活性化意見交換会（ワークショップ）参加者（策定委員除く）

（順不同）

番号	名 前	番号	名 前	番号	名 前
1	青木 弘子	7	中曾 文子	13	東 吉則
2	石丸 尚美	8	中田 恵子	14	前石 敏克
3	上田 秀明	9	中田 行治	15	前石 政江
4	岡西 艶子	10	中戸 伸治	16	山崎登志子
5	坂根登美枝	11	東 多賀子		
6	曾根 敏雄	12	東 トキコ		

3 計画策定の経緯

日 程	委員会等	協議事項
平成27(2015)年 6月27日(土)	第1回地域計画策 定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・地域計画策定委員会の設置 ・地域計画策定の進め方について ・アンケート調査, 地区活性化意見交換会等につ いて
7月14日(火)	第2回地域計画策 定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査について
7月末～8月末	アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査の実施
9月26日(土)	第1回吉田地区活 性化意見交換会 (ワークショップ)	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査結果の報告 ・地区活性化意見交換会(ワークショップ) (地区の資源・魅力と活用のアイデア)
11月14日(土)	第2回吉田地区活 性化意見交換会 (ワークショップ)	<ul style="list-style-type: none"> ・地区の問題点・課題と解決方法について ・参加者が関心のあること, 取り組みたいこと
11月21日(土)	第3回吉田地区活 性化意見交換会 (ワークショップ)	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ別の意見交換 ・優先順位の高い項目の検討と事業計画の作成
平成28(2016)年 1月16日(土)	第3回地域計画策 定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・計画素案の協議, 修正
2月6日(土)	第4回地域計画策 定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・計画案の協議, 承認 ・今後の取り組みについて